

Bö-tanz XXXII

AWAY TARGET

-Reprise-

Akinori Takahashi X Satoshi Hanada

今から30年以上も前・・・
1973年8月8日にその事件は起こった。

来日中の韓国の元大統領候補、金大中（キム・デジュン）氏が九段にあるグランド・パレス・ホテル内で拉致され、5日後、韓国の自宅前で発見されるという事件である。当時の韓国は朴正熙による独裁政権下にあり、金氏の外遊中に戒厳令が敷かれてしまうという事態に至っていた。金氏は韓国への帰国を断念し、日本とアメリカで民主化運動を行う事しかできなかったのである。

この拉致事件に関し、K C I A（韓国中央情報部）の関与が疑われ、日本政府は「主権侵害」に当たるとして、韓国政府に抗議、捜査協力の打診を行った。しかし、韓国政府はこのことは韓国国内の問題であるとして、日本政府からの調査依頼を一切拒否した・・・しかし、外交関係の悪化を恐れた韓国政府は金鍾泌韓国首相を日本へ送り、当時の首相であった田中角栄と会談させた。この協議により、金大中氏の今後の身の安全を保証することを条件に、これ以上の事件究明は行わないという政治決着が日本と韓国の政府間で行われたのである。

事件から30年経った2003年。金大中氏拉致事件の情報開示を求める質問書が、佐々木秀典衆議院議員から提出された。それに対する小泉純一郎内閣総理大臣の答弁は以下のように始まっている。

「お尋ねの事件に関しては、現在も捜査中であることから、
すべての資料を公表することは適当ではない・・・」

金大中事件。その真相は、今なお、隠蔽されたままなのだ・・・

主な登場人物

美 英修（み・よんす）

図らずも（いや、図ってか・・・）、事件に巻き込まれてしまう少女。美紅牀の実の娘。父親はいないようだが・・・ 現在の名前は、美吉英子（みよし・えいこ）。

加納 錠（かのう・じょう）

「飛ばし屋」のリーダー。元公安の「辞め警官」。退官時の階級は警視。

志村 暖（しむら・はる）

「飛ばし屋」の前線部隊。陸上自衛隊調査部第二課別室（別班）で働いていたという過去を持つ。

二木 仁（にき・ひとし）

志村と同様、陸上自衛隊調査部第二課別室で諜報を行っていた元自衛官。「飛ばし屋」では諜報活動を担当。

美 紅牀（み・くじょん）

新宿ゴールデン街のスナック「来夢来人（らいむらいと）」のママ。「飛ばし屋」では逃亡者の受け入れ先の調整などを担当。

高野 優美（たかの・まさみ）

警視庁公安部外事二課の警視正。いわゆる公安のキャリア。加納の後輩にあたる。

西谷 一郎（にしに・いちろう）

大阪府警警備部警備課の巡查部長。加納らの身辺警護を命ぜられている。

三森 咲（みもり・さき）

西谷と同じく、大阪府警の警官。特命に従い、加納らと行動を共にする。

坪井 則夫（つばい・のりお）

陸上自衛隊調査部第二課別室に所属する現職自衛官。志村、二木の部下であった。思想的偏向の傾向有り。

栢木 有美（かしわざ・ゆみ）

大阪府警警備部長。警視庁から出向しているキャリア。西谷、三森の上司である。

桜田 秀美（さくらだ・ひでみ）

公金を横領し、結構なカネを貯め込んでいるしっかり者（？）。平松組に追われ、加納らに自らの飛ばしを依頼。

剣崎 龍次（けんざき・りゅうじ）

広域暴力団平松組、関東支部の相談役。加納に「金蔓」をかつ攫われ、少々ご立腹のご様子。

山口（やまぐち）

金城（かねしろ）／ハッカー磯村（はっかー・いそむら）／クラッシャー牛山（くらっしゃー・うしやま）

平松組組員（二名）

KCIA 工作員（二名）：劉（ゆ）／朴（ぱく）

北朝鮮工作員（二名）

大阪府警刑事課（四名）

○. 新宿、雑踏、一人の女

一人の女をサスが照らす。

ここは新宿の夜の雑踏。通りすぎる車、クラクション、行き交う人々、酔っぱらいの怒号、そして嬌声・・・

女 小児糖尿病という病気がある。遺伝的要因も関係は無視できないが、多くはウイルスの感染や化学物質の影響などが引き金となり、自己免疫が起こった結果だ。自己免疫・・・自分自身の細胞を自ら破壊してしまう過剰反応。自分自身を守るはずの免疫システムがインシュリンを合成する細胞を敵と認識し、攻撃し、破壊する。その結果、高血糖状態、つまり糖尿病の症状を呈することになる。いわゆるオヤジ達の罹るそれとは全く違う。残念なことに、この病気の根本的な治療法は未だ発見されていない。ひたすら対処療法に頼るのみだ。定期的なインシュリンの注射、食事療法・・・食生活を含めた生活習慣を完全にコントロールすること。それが小児糖尿病患者に課せられたミッションだ。11歳で発病した私はこの年になるまで、ずっとこのミッションをこなしてきた。規則正しい生活、適切な食事、そして、毎日の注射・・・

国際政治という大きく複雑な機構。それも、私の体と同じような問題を抱えている。社会の中の同胞を敵として規定し、それを叩きつぶす。そして新たなる敵を創造する。狂った自己免疫の繰り返し・・・世界中の人々が、この狂った免疫機構の中にいる。我々は何時だって破壊されるべき敵にも、それを破壊する側にもなれる。残念なことに、それを決めるのは我々自身ではない。政治という巨大な認定機関だ。では、このような狂った自己免疫機構に翻弄されないためにはどうすればいいのか？ ひとつの対策は、小児糖尿病の対処法と同様、自らを律し、完璧にコントロールすることなのかもしれない・・・

一台の車が、クラクションを鳴らし通り過ぎる。

女 東京都新宿区内藤町。私は夜の新宿の街に立っている。こうして一人で佇んでいると35年も前のあの頃を思い出す。戦後の日本を震撼させたあの事件。狂った免疫機構が引き起こしたひとつの症例。

女の傍らに一人の少女が登場する。美英修である。

女 そのころの私に名前は今と違って・・・

美英修 私は、美英修（み・よんす）・・・

女 という名前だった。大人びてはいたが、まだまだ子供で、そして好奇心の塊・・・

美英修 そうかな？

女 そうでしょ。・・・今から30年以上も前、高度経済成長の末期。

美英修 浮かれきっていた日本・・・

女 その無防備な首に突き付けられた小さな刃・・・

美英修 それは、1973年、夏・・・

女 むせ返るような暑い夏だった。そして、巷ではこんな歌謡曲が流れていた・・・

遠くを見るかのような目線で、立ちつくすふたり。

ゆっくりと暗くなっていく劇場に、沢田研二の「危険なふたり」【1973年4月21日リリース】が響き渡りまくる。

一. サウナにて・・・

「危険なふたり」がくぐもって流れている・・・

腰にバスタオルを巻いた男達。ここは新宿のサウナである。

その中にいる一人の男。加納である。傍らの男が立ち上がろうとするのを制して、

加納 まだだ。俺が合図出すまで座ってろ。

桜田 ・・・・・・・・

加納 誰に話した？

桜田 誰にも・・・

加納 じゃあ、あの厳ついお兄さん達は何だ？

桜田 知りません・・・

加納 あんたを渡したっていいんだぜ。

桜田 そんな・・・ 約束が違う。

加納 約束？ 破ったのはそっちだろ。

桜田 一千万も渡したのに・・・

加納 じゃあ、俺たちの命は一千万か？ なあ、平松組だろ、あれ？

脅える、桜田。

加納 桜田さん。そうビクつくなよ。もっと近くに寄れ。奴らが勤付くだろ。手を握ったり、肩抱いたりしろって・・・ 今は、あんたがタチで、俺がネコってシチュエーションなんだから。

桜田 でも・・・

加納 若いのじゃねえと、その気にならねえって？

桜田 いや、そなんじゃ・・・

加納 ・・・お前、連絡取ったろう？ 坊やに・・・

うつむく桜田。

加納 坊やに何言った？

桜田 羽田で会おうって・・・

加納 ばか野郎。

桜田 カズトって言うんですけど、素直でいい子・・・

加納 （桜田の言葉を切るように）働いてんだよな、そいつ？

桜田 はい、二丁目のアガメムノンって店で・・・

加納 平松の息かかってんだよ、そこ。まあ、カズトちゃんはお前の監視役ってとこだ。あのなあ、「誰にも話すな」・・・そう言わなかったか？

桜田 すいません。でもむこうへ行ったら、私はひとりぼっちなんです。だから・・・

加納 誰も向こうで一生暮らせなんて言ってないだろ。長くても半年だ。そうすりゃ、李さんだか金さんだかになって、日本に帰ってくることは出来た。

桜田 すみません・・・

加納 外国へ飛んだって、そこで一生暮らせるヤツなんか、そうそういねえよ。そんなくらい肝が据わってりゃ、はなっから飛ばし屋なんかに泣きつくかよ。いや、逃げるようなヘマはしねえか・・・

桜田の肩に手を回す加納。手の中でロッカーの鍵が光る。

桜田 なんですか？
加納 9番だ。ロッカーの中に制服が入っている。車は花園横の駐車場。緑の個人タクシーだ。とりあ
えず、適当に走れ。タクシー無線で指示を出す。
桜田 （頷き、鍵を掴む）でも、平松組が・・・
加納 大丈夫。志村がどうにかしてくれる・・・

「きゃー」という悲鳴が、舞台袖から聞こえる。鼻を押さえ、駆け込んでくる若い男（山口）。それを追いかけて大股で現れる志村。

加納 さあ、開幕だ。志村の三文芝居・・・
志村 待て、この野郎。
山口 （脅えて、加納にすぎる）助けて・・・

庇うように山口を隣に座らせる加納。

志村 （加納をにらみつけ）なんか文句あるのか？

志村と加納の顔を交互に何度も見る桜田。

加納 そういうタチなのか？
志村 なんだと？
加納 殴ってするのが好きなのか？
志村 人が好きでやってることに口出すんじゃねえ。
加納 好きか、殴られてするの？
山口 嫌だよ。痛いのが嫌だよ。

山口が激しく首を振る。鼻を押さえた指の間から血がたれている。

加納 嫌いだってさ。
志村 この野郎。いいのかそんな軽口叩いて？ ん？ この志村さんの前でよ・・・
加納
志村 俺は、楽しく遊びに来てるんだよ。おめえみてえのに邪魔されると仕事のことを思い出しまうんだ。どっかで見たツラじゃねえかと思ってな・・・
加納 そうかい？
志村 お前ちょっとここで待ってろ。（平松組の2人に）兄さん達、悪いけどこいつが逃げ出さないように見張っててくんねえかな。
加納 安心しろ。逃げやしないよ。

無然とした態度で、袖へ退場する志村。

加納 （山口に）鼻冷やしてこい。
山口 えっ？
加納 外で鼻冷やしてこい。（桜田に）こいつを頼みます。

桜田、逡巡するが、加納の意図を見抜く。そして、山口を連れ出て行く。
入れ替わりに飛び込んでくる志村。手には黒い手帳。

志村 （手帳をかざし）なめんじゃねえぞ。
加納 おや、まあ・・・
志村 一緒に来てもらおうか。叩きや何かでるだろ・・・

警察手帳を見て、すごすごと出て行こうとする平松組の二人。

志村 兄さん達も見てたろ？ こいつの態度・・・ あんたらは証人だ。
平松組 いや、旦那。ちょっと急用を思い出して・・・
志村 まあ、待てや。

と、舞台はストップモーション。で、電話のベル。
舞台袖に男が座っている。二木である。受話器を取り上げる。
と、舞台他方に現れる女（美紅牀）。受話器を握っている。

二木 手はずは？
美紅牀 下関経由で、どうにか。で、桜田は平松組からうまく逃げられた？
二木 ああ、窮地を脱し、今、個人タクシーの中だ。タクシー無線で指示を出してる。
美紅牀 そいつはよかった。間抜けな割に運はいいよね。
二木 運がいい？ （笑う）・・・で、新宿へは？
美紅牀 30分って、とこ。
二木 新宿御苑の新宿門前だ。急げ。
美紅牀 分かった。

美紅牀、電話を切り、舞台袖へ消える。
電話を切る二木。そして傍らの無線機を掴む。

二木 桜田、聞こえるか？ （しばし反応を待つ）いいか、よく聞け。1時に御苑の新宿門。俺の仲間が乗り込む。女だ。そいつがお前の逃亡の手はずを・・・ 大丈夫、今日は月曜日、御苑は閉まってる。そいつ以外に手を挙げるやつなんかいない。・・・あのな、お前のおしゃべりでこんなことになったんだぜ。つべこべ言うな。（無線を切り）間抜けが・・・

二木、消える。
と、舞台（サウナ）が再び動き出す。

平松組 いや、旦那。ちょっと急用を思い出して・・・
志村 まあ、待てや。証人になってくれってたのんでんだろ・・・

と、片隅で狂ったように床をモップで擦っていた女（高野）が唐突にしゃべり出す。

高野 行かせてあげればいいじゃない。証人なら、私がなりますよ。
志村 何だ、てめえは？
高野 帳面は肌身離さず、でしょ？ そう研修で習いませんでした？

手帳を取り出し、皆に示す高野。
そそくさと逃げ出す平松組・・・
当然、その他の連中もサウナを後にする。

志村 嘘だろ・・・（困り果てて）いや、あいつが、さっきのガキが、おぶやってんじゃねーかと思
って・・・

高野 素っ裸で入るサウナ風呂で？

志村 （かなり焦って）ど、どこなんだ？ 新宿か？

高野 私が言えば、あなたも言う。まずいでしょ。

加納を見る志村。加納、「出ろ」の合図を送る。

志村 そ、そ、そうだよな。まずいよな。同業者が、こんなところで・・・ ね、ねえ？

逃げるように退場する志村。

舞台の上には加納と高野だけ。

と、また舞台はストップモーション。

舞台袖に美紅牀と桜田。

美紅牀 これがパスポートと切符。

桜田 （それを受け取り、驚く）えっ、下関？ 羽田へ行くんじゃ・・・

美紅牀 おまえがかわいい坊やに渡航経路漏らしたからだろ。あのね、やくざの組織力を甘く見ちゃ行け
ないよ。羽田にはもう奴らの手が回ってる。空港は平松組で溢れかえってるよ。だから、下関か
らフェリーで行ってもらうんだ。（写真を見せ）釜山に着いたら、この男が待っている。ソン・ヨ
ン Chol だ。向こうでの潜伏の手助けをしてくれる。

桜田、写真を受け取ろうとするが、美紅牀がそれを離さない。

桜田 （意地悪されていると思い）な、何ですか？

美紅牀 てめえの救い主の顔と名前ぐらい、頭にたたき込んでおけ。（と、写真を懐にしまう）

桜田 （困ったように）あああ・・・

美紅牀 さあ、早くいきな。

桜田 はい。でも、下関でも平松組が待ち伏せしてたら？

美紅牀 身から出たさびだろ。ま、祈るこった。

桜田 そんな・・・

美紅牀 じゃあな。いい旅を・・・（と立ち去ろうとするが、振り返り）ああ、言い忘れてた。あんたの向
こうでの名前・・・イ・パボだ。

桜田 イ・パボ・・・

美紅牀 そう、パボ。（笑って）韓国語で「間抜け」って意味だ。

美紅牀、退場する。泣き笑いのような顔の桜田も次いで退場する。

と、舞台は再びサウナに。

高野 飛ばし屋って職業も、結構大変なんですね。

加納 ・ ・ ・ お前。
高野 高野優美です。お久しぶりです、加納先輩。

と、舞台上に設置された跳ね戸（車のトランク）ががちゃりと開き、現れる一人の少女。美英修である。日記でも付けているようだ。

美英修 ・ ・ ・ 加納らによる海外逃亡支援。対象者は桜田某。公金の使い込み総額は１億とも２億とも言われているが、詳細は不明。逃亡支援は１千万で行われた模様。桜田は羽田から飛ぶはずだったが、何らかの障害のため下関から釜山への渡航ルートに変更せざるを得なかった。その障害とは ・ ・ ・ それを知るためには、更にディープな潜入捜査が必要だろう。以上がトランクに隠れての決死の捜査の結果である。美英修興信所報告 no. 26 ・ ・ ・ っと、こんな感じかな。ほんと、ちょっとした小説よりは１００倍、面白いね。サスペンス爆発って感じ。車のトランクの中って、ほんと危険な感じで、もうサイコー。ここって思ったより居心地いいよ。閉所恐怖症でなければね。毛布くるまって、丸くなっていると、完璧熟睡モードに突入なのよって、捜査員が熟睡してたらダメなんだけどさ ・ ・ ・ 精進、精進。ほんと、せっかくなら、もっと深く潜入しなきゃね。まだ、美味しい所までは達していないから ・ ・ ・ 加納さんとかノンちゃんの交渉現場とか、派手な立ち回りとか、そんなシーンがあればだけど、見たいじゃん。見たいよね、最前列で！ あー、ネクスト・ミッションはどんなのかな？ なんか、今からドキドキ！

美英修、期待にあふれた笑顔のままストップモーション。
と、舞台上に現れる女（現在の美英修）。

女 「Curiosity killed the cat、ネコはその好奇心で死ぬ。」 そんな言葉の本当の意味を知ることなく、私は好奇心の赴くままに行動していた。
１９７３年の暑い夏。とても退屈な夏休み。遊んでくれる友達など一人もいなかった ・ ・ ・

女の台詞に重なるように投影され始めるオープニングムービー。

「Final distination（最終目的地）/Within Temptation」

二. 新宿、真昼の公園

舞台上に加納と高野。ここは新宿の公園。狂ったように鳴いている蝉。夏休みの子供たちがわいわい遊び回っている・・・ 高野が2本のアイスクャンディを手にとっており、その一方を加納に渡す。それを受け取る加納。

高野 ほんと暑いですね・・・

加納 なあ、高野。まったく二人でアイス舐めるために、ここにきたのか？

高野 （加納をちらりと見て、また目線を外し、ゆっくりと語り出す）・・・いいですか、今から話す事はごくわずかな人間しか知りません。この問題には先輩の様な・・・

加納 そんなに重要な話なら別に、聞かせてくれなくても結構だ。

高野 そういうのはやめましょうよ。ぜひともこの話を聞いていただきたいのです。

加納 ・・・・・・・・

高野 ・・・ある人物がこの国にいます。外国人です。彼を仮に“DJ”と呼びます。DJは赤十字国際委員会日本事務所発給の身分証明書を持って入国しました。

加納 そんな話は外相の大平さんに任せておけばいいだろう。

高野 （加納を無視して）DJは韓国の政権体制の中で非常に微妙なポジションにいる人物です。そして日本はDJによる新政権を望んでいます。これはアメリカも同様です。

加納 そうかな・・・

高野 （笑って）しかし、韓国の現政権は彼の存在を快く思っていない。むしろ危険な存在だと認識しています。

加納 俺はもう引退したんだ。ただの飛ばし屋だ。政治の話なんか・・・

高野 いいですか？ ここからが、重要です。近い将来、DJの身に起こることが、韓国、北朝鮮、そして世界全体に非常に大きな影響を与える可能性があります。これに対してわが国は何をなすべきか？ 長い目で見た場合、日本の将来にとって大きなマイナスにならないように・・・

加納 で？

高野 先輩は、飛ばし屋です。DJを飛ばしていただけませんか？ 国外に・・・

加納 そんなの、お前達でやればいいだろ。

高野 こちらでできるなら、こんなことはしない。そうでしょう？

加納 嫌だね。どうして、公安の手先なんかに・・・

高野 そうですか。先輩は私に協力すべきだと思っているんですが・・・

加納 どういうことだ？

高野 まあ、独りで決めずに、仲間と相談してみてください。

加納 相談？ ばか言うな。誰も巻き込むつもりはない。

高野 おや、彼らはすでに巻き込まれているでしょう？ 彼らは日本の法律に照らせば犯罪者ですから。たいした罪じゃない。

高野 そう、先輩を除いては。先輩は重大犯罪者であるにもかかわらず、元公安ということで我々は手が出せない。先輩は保安上の秘密を握っている。法廷で全てを喋られたら、ちょっと厄介ですからね。だが、先輩の仲間はどうでしょう？ 志村暖、二木仁、美紅牀などは？ たとえ証拠不十分で不起訴になってもマスコミは面白がるはずですよ。

加納 高野、お前・・・

高野 そして困ったことには、飛ばした“お客さん”を追いかけている連中が彼らのところへ怒鳴り込んでくる。連中は警察と違って証拠にはこだわらないでしょうから・・・

加納 ・・・俺一人で決める話じゃない。

高野 でしょうね。協力してもらえる場合は相応の謝礼を用意しています。

加納 謝礼？
高野 先輩については無理ですが、先ほどの3人の調査資料は破棄させていただきます。
加納 それを証明するものは？
高野 口約束ですが、だめですか？
加納 お前を信用しろってか。俺たちが失敗したらどうする？
高野 その時は警察の一官僚に暴走があったとして処理されるでしょう。
加納 俺達はトカゲの尻尾のそのまた下請けって訳か？
高野 人はどんな立場にいてもトカゲの尻尾になりうる。今をときめく越後の殿様だって例外ではありませんよ。

高野、名刺を取り出し加納に渡す。

加納 警察庁公安部外事第二課・・・警視正、高野翔子。サッチョウのマサ、ひとつ偉くなったんだな。
高野 裏に連絡先が書いてあります。

加納、名刺の裏を見やりその名刺を高野に返す。(その程度のことは暗記するのだ)

加納 ひとつ聞かせてくれ、俺を下請けに選んだ理由はなんだ？
高野 これはかなりタフな仕事なんです。命がけのね・・・
加納 命がけ？ 穏やかじゃないな。
高野 もうお察しのこともかもしれませんけど・・・ 近い将来、DJの身に起こること。それに仙台坂が絡んでるんです。
加納 仙台坂・・・ 韓国大使館。
高野 実働部隊として、仙台坂の別館が出張ってきているんです。
加納 別館・・・ K C I A？ 韓国中央情報部が？

顔を見合わせる二人。舞台は暗転。

三. 新宿ゴールデン街、スナック「来夢来人（らいむらいと）」

BGM の歌謡曲がフェードインしてくる。

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973 年 8 月 5 日 20:11

東京都新宿区歌舞伎町、ゴールデン街。スナック、来夢来人（らいむらいと）」

美紅牀と二木が話をしている。そこに現れる加納。

美紅牀 お疲れさん。

加納 そちらこそ、お疲れさん。・・・英修は？

美紅牀 上でテレビ見てる。しばらくは降りてこないでしょ。（額を寄せて）大変だったみたいだね。サウナでは・・・

加納 まあな。

美紅牀 しかし、平松組も意地になってるね。

加納 いい金ずるかっさわれたんだ。平松組もカチンと来るだろ？ほんと、作らなくてもいい敵、つくっちゃったな・・・

二木 桜田が横領した公金は、本人が語るところに因れば、1 億。だが実際は、その二倍はいつてるだろ。

加納 まあ、公金といっても、完全な裏金だ。ポケットに入れても起訴はされない。桜田から国外逃亡の仲介を頼まれた平松組はそのすべてを搾り取ろうとした。ヤツを沈めてな・・・

二木 当たり前だ。頼む相手を間違えてる。

美紅牀 でも、それをたったの 1 千万で逃がしちゃうなんて、人が良いって言うか・・・

二木 全部搾り取ったら、やくざと一緒にだ。「飛ばし屋」じゃなくなっちゃう。

加納 それやったら、完璧にパクられるだろ。それじゃなくても常に監視されてるんだ。俺たちは泳がされているだけだ・・・

と、志村登場。

志村 遅れてごめん。ママのために大相撲のチケット買いに行ったら遅くなっちゃった。どう、たまには店休んで高見山見に行こうよ。

美紅牀 わざわざ蔵前まで、高見山見にか？

志村 んっでもって、その後、ちゃんこでも食べてさ。

加納 あんまり派手に出歩くなよ。平松組の若いのに、面割れてるんだからな。

志村 とつつかまるようなヘマはしないよ・・・と言うよりは、はなっから、危ないところは出歩かないの。天性のビビリだし。でもさ、平松組にも驚いたけど、まさかサウナに本物のマッポがいたのには、おったまげたよ。

二木 サウナにマッポ？

志村 ああ、錠さん大丈夫だったのかよ。あのあと・・・

加納 ・・・・・・・・

志村 でも、どうしてあんなところにマッポが？

加納 （志村の問いを聞き流し）・・・なあ、みんな集まったところで、ちょっと相談があるんだ。

美紅牀 どうしたんだよ。改めて・・・

加納 ・・・今回の仕事 1 千万。必要経費の 400 万を除いた残りを、頭数で割ればひとりあたり 15

0万。大した額じゃないが、まあまあの収入だ。今までの俺たちのチームのやってきた仕事の数から考えても、みんな蓄えは結構な額になってるだろ？　そろそろ、潮時じゃないか？

美紅牀　潮時？

加納　この次の仕事で、飛ばし屋、廃業しないか？

美紅牀　唐突に何言い出すんだか・・・

志村　そうだよ。何で廃業しなきゃならねえんだよ！

加納　潮時なんだ！　いいか、最後の仕事は、お前らがお前ら自身を飛ばす・・・

志村　俺たち？　おい、何言ってるんだ、錠さん！

加納　お前達に飛んでもらうんだ。カネはすべて俺が持つ。

二木　お前は どうする？

加納　俺はこの国に残る。元公安だからな。俺自身が「輸出禁止品目」ってことだ。

志村　だったら、俺たちだって！

加納　俺には公安の監視が付いている。俺と一緒に行動すれば、逃げ切る可能性が少なくなるだろ？（立ち上がり、帰ろうとするところで、立ち止まり）いいか、作戦決行は明後日、紅牀は受け入れ先の確認、仁は逃走経路の確保、暖は部屋の後かたづけでもしておけ・・・（と、店を出ようとする）

二木　（出て行こうとする加納を制して）錠さん。あんたが廃業するって言ったら、俺はそれに従う。あんたに飛べって言われたら、素直に飛ぶ・・・

志村　仁、お前！

二木　・・・だけど、これだけは教えてくれないか？　その訳を・・・　サウナで会ったマッポ、それが理由か？　偶然出くわした訳じゃないだろ？　誰なんだ、そいつ？　そして、そいつに何を言われた？

加納　・・・・・・・・

美紅牀　ねえ、錠。何、黙ってるんだい。つまらない言い訳考えて黙りこくっているんならやめな。

加納　（観念して、振り返る）サウナで会ったそいつは、俺の現役時代の、チヨダにいた時の後輩だ。名前は高野。サッチョウの警視正。

二木　公安か？

加納　ああ。そいつが、俺たち飛ばし屋チームの存在を明らかにすると・・・　元警官の俺を除く、お前らの存在を・・・

志村　俺たちの存在を表沙汰に？

加納　そう。やばいんだよ。敵は警察だけじゃない。飛ばした連中の利害に関わってた奴らすべてが、攻めてくることになる。とてもかわしきれぬもんじゃない・・・　進退窮まったんだ。逃げるしかない。そうだろ？　（二木に）これが逃がし屋廃業の理由だ。仁、これでいいな。

二木　（ゆっくりと首を横に振る）いや・・・　どうして、隠し事をする？　なあ、今の今まで泳がされてた俺たちが、何の理由もなくしょっ引かれるか？　その高野って野郎は、お前になにかを依頼した。もし受け入れなければ、「俺たちを挙げる」という交換条件をお前に突き付けて・・・

美紅牀　素直にゲロっちゃえよ。

加納　（集中する視線に負け）・・・分かった、降参だ。話すよ。高野はこう言ったんだ「ある男を捜し出し、そして飛ばせ。断ればチームの存在を公にする。」

志村　「ある男を探し、飛ばす」って、いつも俺たちがやっていることじゃん。それなのに・・・

美紅牀　金で頼まれたんならいくらでもやるが、脅されてやるのはまっぴらご免って訳だろ？　それも天秤にかけられているのは、自分の命じゃなくて、仲間の命。

志村　かちんと来るよね、それじゃ・・・

美紅牀　どうせあんた「奴らには手を出すな！　俺一人で請け負う。」とか言っちゃったんだろ？

志村　かっこつけ過ぎ、というより、水臭過ぎ！　錠さんだけの問題じゃない、俺たち全員の問題だ。

美紅牀　そう。あんただけに背負わせて、ケツまくるってわけにはいかないんだよ。

加納 お前ら・・・ 公安の手先になって動くことの意味が分かってるのか？ トカゲの尾っぽみたい
にぱったり切り落とされる。真相は闇から闇に葬り去られる・・・

二木 その上、かなりやばそうな仕事だってことだよな。命がいくつあっても足りないような・・・

加納 そうだ。

美紅牀 さあ、高野って言うのに連絡とりな。その仕事、請け負うって・・・ 脅されてやるって言うの
は気に入らないけど、身から出たサビって訳だ。全く、公安は切り札の切り所をわきまえてる・・・

加納 ・・・・いいのか、みんな？

三人 （黙って頷く）

志村 当たり前だろ。

二木 とりあえず詳しい話が聞きたいな。高野には直接会えるのか？

加納 多分な・・・

電話機に向かう加納。受話器を上げるが、ダイヤルは回さない。上部のリレースイッチを押したり
離したりする。ツーという通話音が響いている。ガリッというノイズを発生させる。そして、
また通話音・・・加納は盗聴器が仕掛けられているかどうか調べているのだ。

加納 やはりな・・・ 聞こえるか？ 高野さんに伝えてくれ。詳しい話を聞きたい。スナック「来夢
来人」で待つ。そういえば分かるはずだ。（電話を切る）

志村 なにあれ、ダイヤル回さないで通話したぞ！ あれ、糸電話にでもなってるのか？

美・二 ああ、盗聴器仕掛けられてただけだろ！

と、舞台は暗転。振り替わりで台上にいる一人の少女にサス。美英修である。
テレビから漏れ聞こえる「8時だよ。全員集合！」の長さんかけ声とオープニングミュージック。
英修は紙コップを耳に当てている。糸電話か？

美英修 ・・・・公安？ 高野？ 新しい依頼者は警察って訳？ でも肝心なところが、聞き取れないんだ
よね。もう少し有線放送の音量を下げてくださいな。こっちはテレビの音量下げること出来な
いんだよね。一応テレビ見てるって設定だし。ドリフももう少し静かにやってもらいたいもんだ
よね。って、かとちゃんに文句いったところで、どうしようもないし・・・ あーあ、この美英
修興信所特製盗聴装置の限界かな？ 盗聴装置っていっても、単なる糸電話だから仕方ないけ
ど・・・ （なんか気付いて）そっか、糸がゆるんでるから、イマイチだったのかな？（紙コッ
プを引っ張り）こうやってテンションを強くすれば・・・ おっ、音質が向上するね。こうか？
こうなんだ！ さすが、英修興信所特製！ 結構いけるじゃん。会話が手に取るように・・・

と、糸電話の糸がぶちんと切れる。

美英修 あっ！ ご自慢の盗聴装置の糸が！ 切れちゃった・・・

コップと糸の切れ端を見つめ、悲しい顔をするが、不意に正面に向き直り、いかりや長介風に。

美英修 だめだこりゃ。次いってみよお。

サスが急速に暗くなり、美英修が退場する。
テレビから漏れ聞こえる「全員集合」においても、同時に回転舞台が回り始めたようだ。

四．高野現る

舞台の上に、加納、二木、志村、美紅牀。そして、後ろ向きに一人の女が立っている。高野である。振り向きざま、口を開く。

高野　ＤＪ、問題の人物をこう呼ぶことにします。現在、彼は日本国内にいます。「アジアのケネディ」と称されるＤＪは、一昨年の韓国大統領選挙で善戦し脚光を浴びましたが、昨年の「維持体制」の確立により、事実上、アメリカと日本で亡命生活を送りながら、民主化運動を続けざるを得ない状況に追い込まれています。そんなＤＪを疎ましく思う青瓦台は仙台坂にある命令を下したのです・・・

加納　青瓦台？　仙台坂？　分かりやすく言ってくれないか？

高野　（むっとして）分かっているでしょう、そんなことは。あなたは・・・

加納　あのな、高野。俺たちは民間人なんだよ。ここでは妙な符丁使うな。

高野　・・・（と、怒りを収めて）分かりました。では、青瓦台は、韓国の大統領府、すなわち朴正熙政府です。そして、仙台坂は韓国領事館・・・　つまり、ＤＪの国外でのこれ以上の政治活動を止めようと、「韓国の大統領府」が「日本国内の韓国領事館」に、ある命令を下したんです。・・・これでいいですか？

加納　（頷く）

志村　かえって回りくどくねえか？

二木　（志村を制し）で、どんな命令だったんだ？

高野　・・・・・・・・

二木　まさか？

高野　・・・ＤＪを亡き者にしろ。

志村　ちょい待ち。ここで？　この日本で？　おいおい、００７じゃあるまいし【この年、シリーズ第８作目「死ぬのは奴らだ」が公開された】、そんな上手くいくわけないだろ？　それに人の国でそんなことやったら主権侵害だぜ。わかってんのかな、全く・・・

美紅牀　奴らならやりかねないね。

志村　そうはいつでも、実際、危険すぎだろ？　よその国で暗殺なんて・・・

美紅牀　国内でも国外でも関係ないの。強引にでもやっちゃうのが、ＫＣＩＡのやり方なんだよ。青瓦台には・・・　朴正熙には逆らえないんだ。

志村　でもさ、ばれたら主権侵害ってことで国際問題に・・・

高野　確かに、青瓦台が「主権侵害」というものを軽んじているとは思いません。今から６年前の１９６７年、ＫＣＩＡは、反政府活動を行っているという理由で、西ドイツ在住の１７人の韓国人留學生を本国に強制連行しました。これに対して、西ドイツ政府は主権侵害としてＫＣＩＡ職員と見られる大使館員３名を強制退去処分にし、経済援助も中止するという強硬な対抗策に出ます。一昨年、連行者全員をドイツに再入国させるまで両国の関係は正常化しませんでした・・・

加納　つまり、主権侵害のツケがどれだけ大きいのか、あちらさんだって痛いほど分かっているってことだ。（美紅牀に）それでもやると思うか？

美紅牀　やるね。誰にも知られることなく殺害する。途中で誰かに見つかったら、そいつも殺る。

高野　私も仙台坂は・・・（加納に睨まれて）だから、ＫＣＩＡは確実に実行に移すものと思っています。

志村　で？

高野　我々は彼らの暗殺計画を阻止しなければならない。なんとしても・・・

志村　どうしてお前らの手でやらない？　警察力で阻止すりゃいいだろ？

高野　それができれば苦労はしなんです。警察を動かせば、自ずと原因究明が求められる。そして、確実に国際問題へと発展すでしょう。だから・・・

五. 東京駅、到着ロビー

暗転の中、国鉄（現 JR）のアナウンスが響いている。

明転すると、加納が立っているのが分かる。

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973 年 8 月 7 日 12:09

東京都千代田区丸の内。東京駅 15 番線ホーム。」

そこに歩み寄る男女の人影。西谷と三森である。

三森 加納さんですよ？

加納 ああ。

三森 初めまして。三森です。こちらは西谷さん。

加納 所属は？

三森 二人とも大阪府警警備部警備課です。

加納 少年課かと思ったよ。

三森 なんです？

加納 いや、こっちの話。しかし、まあ、何でわざわざ大阪から・・・ まあ、それはそれとして、階級は？

西谷 巡査部長です。

三森 同じく巡査部長です。

加納 二人とも丁寧に喋るなよ。お互いに敬語使ったら、目立つだろ？

西谷 わかりま・・・ わかった。

加納 いいや、気持ち悪いから、敬語で・・・ で、なんて言われてきた。

西谷 あなたに協力するようにと・・・

加納 誰から？

西谷 上から。

加納 上って？（西谷が応える気がないのを察して）まあ、いいや。で、協力をより具体的に言うと？

西谷 協力して身辺を警護せよ。

加納 それから？

三森 監視せよ。

加納 正直だな。いいねえ、素直って言うのは・・・

三森 警護する対象の信頼を得られなければ、仕事は勤まりませんから。

加納 いいこと言うね。俺も肝に銘じておくよ。で、（手で拳銃の形を作り）これは？

三森 用意できます。

西谷 （加納の視線を受けて、頷く）

加納 射撃に自身は？

西谷 二人とも上級です。

加納 人を撃ったことは？ あるわきゃねーか・・・

三森 言っておきたいのですが、拳銃の使用は極力避けるように言われています。私も西谷さんもそのつもりです。

加納 俺だって、ドンパチには巻き込まれたくない。

三森 では、拳銃は最終手段と言うことで合意ですね。

加納 ああ、合意だ。でも、ここ一番って時には、引き金を引けよ。迷うことなく。いいか、この特命

はかなりやばいやまなんだ。何処まで話を聞いているか分からないが・・・

三森

全部です。

西谷

全部話していただかないと任務に就けませんから、と高野警視正には申し上げました。

加納

（三森に）お前も？

三森

（頷く）

加納

じゃあ、俺に関しても、お袋以上に知ってるって訳だ。

三森

加納錠。元公安。１０年間公安で働いていたが、５年前に退職。最終階級は警視。

西谷

現在は、自称「飛ばし屋」。犯罪者の海外逃亡の幫助している。詐欺師や強盗、果ては殺人犯まで相手にして・・・

加納

ご名答。幫助なんて大げさなもんじゃないけどな・・・ まあ、十年間公安畑にいた３０過ぎの辞め警官に、まともな就職口はないという典型例だな。じゃあ、俺の仲間についても、かなりのことを知ってるって訳だな？

三森

二木仁、志村暖。元自衛官。陸上自衛隊調査部第二課別室、通称ベッパンで、朝鮮半島関係の情報収集に従事。しかし、５年前の６８年、アメリカの巡視船プエブロ号が、日本海海上で拿捕、抑留されるという事件に絡み・・・

加納

もう、いいよ。しかし、やりにくいね。ケツの毛の数まで知られている相手と組むってというのは・・・俺たちのチームを監視するならそれも結構だ。しかし、作戦に関しては、俺の命令を聞くこと。今回に限り、判断は俺だけに任されているということを理解しろ。もし、お前らの勝手な判断で、または逡巡で、俺のチームの一人に危害が加わるようなことがあれば、俺はお前達を許さない。いいか、これだけは理解して欲しい。俺たちはチームなんだ。

西・三

（加納の気合いに気圧されて、頷いてしまう）はい。

加納

今回限りのな・・・ ついてこい。

と踵を返し、退場する加納。二人もそれを追い退場。

六. 別班・坪井

街の雑踏、行き交う車のSE。舞台袖に一人の男（坪井）。坪井が手を挙げると、帽子を被った志村が現れる。タクシーのようだ。それに乗り込む坪井。

志村 お客さん何処まで？

坪井 高田馬場まで。

志村 高田馬場？ じゃあ、ご自宅の原田マンションですね？

坪井 （身構えて）誰だ、貴様！

志村 俺に向かって、「貴様」はねーだろ？

坪井 （気付いて）志村三佐！？

志村 今日も空振りだったみたいだな。

坪井 どうして、こんな所に・・・

志村 昔の同僚に会いたくて・・・ で、ベッパン辞めたんだって？

坪井 ええ、半月ほど前に。自分の専門分野を生かしたいと思い、調査会社を設立しました。

志村 坪井資料サービスだったな。

坪井 ！

志村 そして、初仕事の依頼者が、日曜新聞社東京特派員のサトウ。

坪井 どうして、それを・・・ 志村三佐、あなたは・・・

志村 やめようや、その呼び方。今はお互い民間人なんだから。形だけの退官。そして、形だけの調査会社・・・ お前は、未だ調査部の仕事を続けている・・・ （無線機を掴み）こちら個432号、ただいま、馬場へ昭和通りを北上中。・・・なあ、時間いいか？

坪井 志村三佐、いったいなにを・・・

志村 昔の上官が、ちょっとばかりお話ししたいんだと・・・

舞台後方に二木が現れる。無線機を持っている。

二木 よう、久しぶりだな。

坪井 その声は・・・

二木 そうだ。

坪井 二木三佐！

二木 坪井、単刀直入に聞こう。サトウから何を頼まれた？

坪井 ちょっと待ってください。志村三佐といい、あなたといい、いきなりこんな形で・・・

二木 失礼は承知の上だ。教えてくれ、サトウから頼まれたことを。

坪井 私にも守秘義務があります。

二木 そうか。じゃあ、俺が勝手に喋らせて貰う。お前は、サトウから人捜しを頼まれている。そいつは日本国内で韓国政府に楯突く反政府活動を行っている韓国人だ。サトウは、そいつを捜し出し、説得する機会を欲している。お前もそんなサトウの話を鵜呑みにしている訳じゃあるまい？ だって、サトウは・・・ いいか、奴らは話し合いなんて甘っちょろいことは考えていない。強硬手段にでるはずだ。つまり、奴らは確実にターゲットを殺す。もしかしたら、その犯行をお前に擦り付けるかもしれない。

坪井 擦り付ける？

二木 サトウからお前に提供される情報はどうか？ 今日といい、今までといい、すべて遅すぎるものばかりだ。そうだろう？ 奴らは奴らでターゲットを追っている。お前の力など借りるまでもないんだ。奴らがしているのは、お前に遅すぎる情報を与え続け、無駄に走り回らせ、「お前が追っ

ていた」という既成事実を作り上げようとしているだけなんだ。

坪井 そんなことはない！

二木 そうなんだよ。分かったら、手を引け。ケツまくって逃げるんだ。奴らはお前のことを仲間だと、毛ほども思っやしない。これ以上深入りするな。

通信が切れる。二木も消える。

坪井 いったい何なんだ、あんた達は！

志村 忠告だ。

坪井 これは俺自身の問題なんだ。俺自身で決める。ターゲットを殺す？ そんなこと分かっているさ。ヤツは民主主義運動家などではない。単なる「アカ」なんだ。韓国の共産化を進めようとしているだけだ。過激派のウジ虫どもと一緒にだ。俺は・・・

志村 止めろ！ いいか、すぐに手を引け。KCIAを甘く見るな。お前はだまされているんだ。「自衛隊を思想的偏向により除隊させられた元自衛官が、来日中の韓国人政治家を暗殺！」 そんな週刊誌の小見出しが、俺には見える。お前に罪を擦り付けることで、青瓦台は外交関係でも優位に立てるんだ。強力な政敵を葬ることができただけでなく・・・

坪井 ・ ・ ・ ・ ・

志村 （名刺を取り出し）もし、困ったことがあったら、ここに連絡しろ。俺たちは、お前を安全な場所へ飛ばすことができる。・・・番号を覚えたか？ （返答を待たず、名刺をしまう）坪井、よく考えろ。いいな・・・

坪井 ・ ・ ・ ・ ・

暗転。

七. 英語の勉強は・・・

明転すると、そこは「来夢来人」。

二木と美英修。

二木　だから、このWhoは後に続く文節を受ける関係代名詞だろ。だから、「彼女がかつて愛したところのその男に、彼女は自分の一番敏感な部分を・・・」という感じの訳になるわけだ・・・って、お前何を読んでるんだ？（見ていたテキストの表紙を慌てて確かめる）

美英修　英語の教科書。

二木　（表紙を見つつ）だよな。変わったな、学校の教科書も・・・

美英修　二木さん。食い入るように読みふけてるけど、そんなに面白いの？ 私、英語って大嫌い。

二木　そんなこと言わないで、勉強なさい。この前みたいな点数取ったら、ママに怒られちゃうぞ。

美英修　いいもん。怒られたって。

二木　そんな身も蓋もないこと言わないで。ママに頼まれちゃったんだよ。英語教えてあげてって・・・こっちの身にもなってくれよ。

美英修　なあってあげない。あ、そうだ。英語じゃなくて韓国語教えてよ。

二木　えっ？

美英修　二木さん、出来るんでしょ？ 学校で習ったって、ノンちゃんが言った。ねえ、教えてよ。だってなんか変じゃない？ 自分の国の言葉もしゃべれないのに、英語を勉強するなんて。

二木　ママはなんて？

美英修　必要ないって。日本語と英語が出来ればいいって。ハングルなんていらないって。

二木　ママにはママの考えがあるんだろ。

美英修　でも・・・

二木　分かった。教えてやるよ。

美英修　ほんとー（喜ぶ）

二木　でも、次の英語のテストで満点取ったらね。

美英修　がっくし・・・ っていうか、ずるーい、二木さん。

二木　ちっともずるくない。ママに内緒で、ちゃんと教えてあげるから、約束するから・・・

美英修　ほんと？ 分かった、約束だよ。

と、二人が指切りをしているところに、志村登場。

志村　おっ、仲がいいねー。何の約束？

美英修　あっ、ノンちゃん。何でもなしの。私と二木さんの秘密。

志村　そー。熱いね、お二人さん。あんまり熱いから、冷房入れちゃお、プチッ。

美英修　ママが昼間は使っちゃダメだって。電気代が高いから・・・

志村　そんなもん。俺が払うって。で、ママは？

美英修　お買い物。

志村　あっ、そう。

美紅牀がいないことをいいことに、勝手に冷蔵庫からビールを取り出し、グラスに注ぐ。

美英修　あー、また勝手に。ママに怒られるよ。ただでさえノンちゃん、ツケ溜まってるのに・・・

志村　何で君が俺の支払いの状況まで把握してるの？ それに俺はノンちゃんじゃなくて、「暖かい」って書いて「はる」！

美英修　だって、向こうじゃ「暖かい」って書いて「ノン」って読むんだよ。
志村　（二木に）？
二木　自分で勉強してみたいだ。
美英修　そうだよ。
志村　ふーん。と、たばこ、たばこ、たばこは何処かなー・・・（と、たばこ入れに手を出す）
美英修　あー、また勝手に。だめだってば！
志村　品切れか・・・　あのさ、悪いけど、たばこ買ってきてくれる？　ショートホープとチェリー。（と、千円札を差し出す）
美英修　い・や・だ！
志村　おつりは駄賃だ。
美英修　（千円札を奪うように取り）うん。だからノンちゃん大好き！

と、美英修退場する。その後ろ姿を見て・・・

志村　あの喜び方、あれは完全にママ似だな。って、そんなことより・・・
二木　ん？
志村　坪井のヤツ、どう思う？
二木　頭冷やしてちょっと考えれば、自分が単なるスケープゴートだってことに気付くんだが・・・　頭に血が上っているヤツに何を言っても無駄かもな・・・
志村　昔の部下に、つれないんじゃないの？
二木　俺だって、ヤツが手を引いてくれれば、って願ってるよ。だが、ヤツは深入りし過ぎてる。深入りするな。どうせ利用されて捨てられるだけだ。そして、深入りしすぎれば、消されることになる。俺たちはそのことを身にしみて知っているが・・・　ヤツにはそれが分からないだろう。
志村　敵の内部にいるっていうことも分かっていない。
二木　巨大すぎて、直感できないんだ。俺たちだってそうだったろう？
志村　そうだな。
二木　今、坪井は完全に孤立している。後ろ盾は何もない。すでに切られた尾っぽなんだ。K C I A し
か、つまむ相手がいない。
志村　ヤツがそれに気付いてくれれば、俺たちが飛ばしてやれるのにな・・・

暗転していく。と舞台に現れる、加納。
そこへたばこを持って駆け込んでくる、美英修。

美英修　（加納に気付き）あっ、加納さん。こんにちは。
加納　元気か？
美英修　元気、元気！　今、ノンちゃんに頼まれてたばこ買ってきたところ。加納さんは、どうしたの？
加納　車、暖のタクシーの掃除さ。
美英修　じゃあ、手伝う。
加納　ありがとう。もって行かなくていいのか、たばこ？
美英修　いいの。だって、ノンちゃんは二木さんと二人きりの話をしたかったから、私にお使いを頼んだんだもん。
加納　勘が鋭いな。母親譲りで。
美英修　「母親譲り」は余計。

と、加納、車のトランク（舞台装置に仕込まれた蓋）を跳ね上げる。

加納 結構広いな、クラウンのトランクって。LPGのタンクが邪魔だが、死体だったら2体は運べそうだな・・・

美英修 加納さん、比喩がグロすぎ。

加納 ごめん。じゃあ、もっときれいな比喩にする。女の子一人なら、簡単に隠れることが出来る。それも、おにぎりを持って・・・

美英修 ぎくっ・・・

加納 「ぎくっ」ていった、今？

美英修 (人差し指を左右に振って) ははは、空耳、空耳。

加納 (中に手を入れて、なにかをつまみ出す) 見てごらん。乾いたご飯だ。たぶん、おにぎりのひとかけら。君の大好きな、焼きおにぎりの・・・

美英修 何で、そんなところにおにぎりの一部があるんでしょう？ ノンちゃんよ、きっと・・・

加納 そうかもしれないね。それに、こここのところを見てごらん。トランクのノッチの所。ちょっと壊れているだろう。

美英修 ほんとだ。

加納 自然に壊れたように見えるが、よく見ると・・・

美英修 加納さん。これは人為的に壊されたように見えますね。

加納 そうだ。中からトランクを開閉できるように細工されたんだ。

美英修 どうして、ノンちゃんがそんなことを！ これにはきっと深いわけがあるに違いない。私、ノンちゃんに、それとなく、聞いてみるよ。

と、逃げようとする美英修。加納、それを制して

加納 待て。

美英修 待たなきゃダメ？

加納 そう、待たなきゃダメ。英修、君は賢くて、好奇心も旺盛だ。ママや俺たちが何をやっているか気になって仕方がないのは痛いほど分かる。俺たちが店で声をひそめて話し合っている時、2階で君が聞き耳を立てているのは分かっている。テレビの音量を上げ、あたかもそれを見ているかのような工作をして・・・

美英修 (ひとりごちて) ばれてたか・・・

加納 ばればれ。逆に言えば、俺たちのやっていることだって、君にばれているんだろ？

美英修

加納 この前、君はこのトランクに隠れて、俺たちと一緒に新宿までいったろ？ 桜田という男が車に乗り込み、そして君のママを拾った。君は息をひそめ、聞き耳を立てる。探偵ごっこの興奮はすでに頂点に達していた。そうだったんだろ？

美英修

加納 俺たちがやっていることは何だ？

美英修 それを言ったら、私殺されちゃうの？ きっとそうなんだ。私は加納さんに殺されるんだ。でも加納さんに殺されるなら、いいかも。そうそう、薄幸の美少女の儚き命がこうして散っていくのね・・・

加納 散っていかないから。まあ、お察しの通り、俺たちは「飛ばし屋」だ。今度の仕事が終わったら、すべてを話す。だから、もうトランクに隠れるような、危険な探偵ごっこはしないで欲しい。この商売は、想像もつかないような危険をはらんでいるんだ。俺たちは君を守るほどの余裕は、たぶんない。それに君の病気のことであってある。血糖値のコントロールがうまくいかなかったら・・・

美英修 病気は関係ない！ だって、きちんとコントロール出来てるもん。注射だって、食事療法だって、きちんとしてる。だから、病気のことは関係ない。

加納 ごめん。悪かった。謝る。君は賢く、その上しっかりしている。生活をきちんとコントロールし、自分を律することができる強い意志を持っている。だったら、君自身の好奇心だってうまくコントロールすることは出来るはずだ。だから・・・約束してくれないか？ （小指を立てて突き出す）

美英修 （恥ずかしそうに、加納の小指に自分の小指を絡める）

加納 もう、トランクには入らない。いいね。約束だ。

美英修 分かった。約束する。でも、その代わりに加納さんも約束して。

加納 なに？

美英修 トランクのこと、ママには言わないで。

加納 分かった。約束する。（指切りを終了し）さ、早くたばこもっていきな。暖にどやされるかもしれないぞ。

美英修 うん。

駆けていく美英修。加納の背後に現れる美紅牀。買い物袋を下げている。加納それに気づき・・・

加納 聞いていたのか？

美紅牀 悪いとは思ったけどね。買い物帰り、偶然に通りがかっちゃってね・・・

加納 相変わらず勘が鋭いな。

美紅牀 娘譲りでね・・・

加納 （笑って）とにかく、そろそろ潮時だってことだ。今度の仕事を最後に、英修と一緒に田舎へでも引っ込め。

美紅牀 考えてみるよ。まあ、いつかはこんな時が来ると思ってたからね。

トランクを閉める加納。「バタムッ」というSE。
と舞台が暗転する。

八. 作戦会議

BGM の歌謡曲がフェードインしてくる。

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973 年 8 月 7 日 18:36

東京都新宿区歌舞伎町、ゴールデン街。スナック、来夢来人（らいむらいと）」

高野が立っている。その近傍に加納、志村、二木、そして美紅牀。西谷と三森が借りてきたネコのように座っている。

高野 これは我々が入手した確実な情報です。韓国民主統一党党首の梁一東（ヤン・イルトン）が現在東京に滞在中です。糖尿病検査の名目で外交官旅券にて入国しておりますが、先日、順天堂病院を退院して、九段にあるホテル・グランドパレスに宿泊しています。

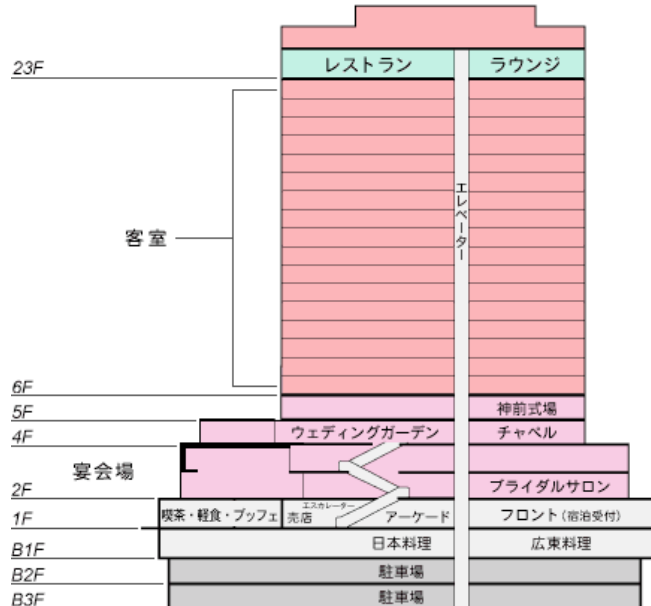
加納 大使館が手配したホテルか？

高野 （頷く）DJ は自らの師とあおぐこのベテラン政治家に、明日訪問することになっています。当然、この情報は仙台坂、すなわちKCIA、も掴んでいるようです。梁一東が泊まっているスイートルームの周辺の二部屋が畑中金三郎という人物により、先ほど予約されました。

志村 もちろん偽名・・・KCIAか？

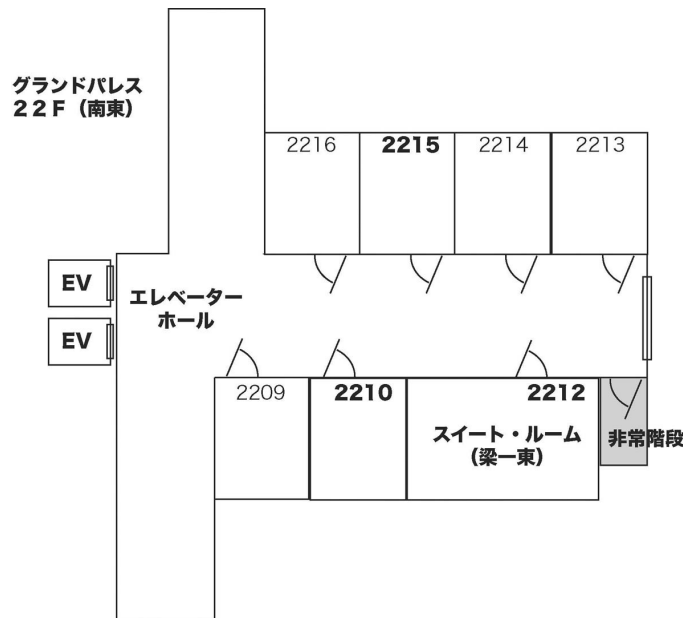
高野 かなり高い確率で。このスライドを見てください。

投影されるスライド。グランドパレスの断面図である。



高野 これが、グランドパレスの断面図です。駐車場が地下2、3階にあり、客室は6階から22階、そして最上階はレストランとなっています。そして梁一東の部屋は22階です。

スライドが切り替わる。22階の平面図の一部である。



高野 これが、22階南東側の平面図です。2212号室のスイートルームに梁一東。そして、隣の2210号室、その向かいにあたる2215号室が、KCIAにより予約された部屋です。

加納 奴らはいつ動くかな？

高野 私はDJがこの部屋を後にしたその瞬間だと思います。

加納 何故？

美紅牀 韓国は儒教の国。梁一東は見送りに出てくることはない。DJはたった一人でエレベーターホールに向かう。

二木 それに、接見前に動いたら、梁一東がすぐに不審に思うだろ？

志村 ちょい待ち。ボディ・ガードは？

高野 DJは会見時にボディ・ガードを立ち会わせることを好みません。ボディ・ガードはロビーで待機しているはずです。

加納 つまり、連中にとっちゃ、DJが梁一東の部屋から出てきたその時が、絶好のチャンス。

二木 たった一人、エレベーターホールに向かうDJを強引にどちらかの部屋に連れ込み、そこで殺害。

志村 そうなる前に、俺たちが動くてわけね。

加納 出来れば事を荒立てずか・・・

美紅牀 ここに非常階段があるね。

高野 そうですね。上の23階から地上までつながっているはずです。

加納 非常階段か・・・ ちょっと待て、2212のドアが開いている瞬間は、非常階段の出入り口が死角になるな。

二木 そうだな。奴らが部屋から廊下に大きくはみ出さない限りにおいてだが・・・

志村 一瞬の死角か！ その時にDJを非常階段に導けば！

加納 すぐに奴らに気付かれちゃうだろ。奴らは非常階段に殺到する。

二木 DJはあえなく追いつかれ、そして・・・

加納 非常階段を使うにしても、時間稼ぎをしなくては・・・

志村 時間稼ぎか・・・

加納 そうだ。

高野 どうしたの？ 時間がないのよ。奴らの決行は明日・・・

美紅牀 いいから黙ってな！ 慌てる乞食はもらいが少ないよ。

加納 ...なあ、高野？ DJって、タッパあったよな？

高野 ええ、背は高い方です。

加納 どうにかなるかな・・・（と、二木を見やる）
二木 何見てるんだよ。
加納 お前、今度は前線で仕事してみるか？
二木 なに？
加納 ほら、いつも通信兵みたいな仕事だろ？ 前線出てみようか。
志村 仁が前線って、どういうこと？
加納 （二木の肩に手を置き、ニンマリとして）替え玉攪乱作戦。
二木 替え玉？ なにそれ？
加納 大丈夫。ボディ・ガードを二名付ける。もしもの時には守ってもらえる。（西谷と三森に）なっ？
西・三 （よく飲み込めていないが、とりあえず幾度も頷く）
加納 高野、二人のためにグランドパレスのボーイとメイドの制服を用意してくれ。明日の朝までに。
高野 （よく飲み込めていないが）分かった。
志村 で、何なんだよ。その替え玉攪乱作戦って？

全員、加納の方に集まっていく。会話はサイレントとなる。指示を飛ばす加納。驚く二木。笑う志村。つつこむ美紅牀。腕組みをする高野。そして、未だ飲み込めていない西谷と三森。舞台後方に現れる美英修。

美英修 替え玉攪乱作戦・・・ 気になるなあ。気にするなって言う方が間違ってる。でも、加納さんと約束したし・・・ 約束破りたくないし、特に加納さんとの約束は・・・ 破ったらきつと・・・ でも・・・ でも、これが最後の「飛ばし」なんだよ。多分、本当に最後の・・・

舞台が急速に暗転していく。と、一本のサスに坪井が浮かび上がる。

坪井 決行は明日。すべての装備は整っている。暗殺？ いや、容共の輩に天誅を下すだけだ。アジアの、そしてこの国の共産化を避けるための戦い、俺自身の戦争の始まりだ。市ヶ谷で自決された三島先生の檄文を思い出せ。「國の大本を忘れ、國民精神を失ひ、本を正さずして末に走り、その場しのぎと偽善に陥り、自ら魂の空白状態へ落ち込んでいく」・・・それがこの国の姿だ。不毛な理想に振り回され、魂を失いつつあるのだ。鉄パイプで殺し合う馬鹿どもを見ろ。あれに何の意味が見いだせるというのだ。・・・市ヶ谷台上で上げられたあの叫びが耳にこびりついている。「君たちは武士だろう」・・・1000人の自衛官に向かい叩き付けられたあの言葉。怒号やヤジの中で発せられたその中にも先生の「恐ろしいほど透明な問いかけ」は、みな心に届いていたはずだ。深く浸透していったはずだ。自衛官が、国を守るものが、サラリーマン化してどうする。我々は武士なのだ。かくあらねばならぬのだ。気概は、国を思う気概は何処へ消えた？ 我々はいつ魂を失ったのだ？ ・・・決行は明日。すべての装備は整っている。容共の輩に天誅を下す・・・ 心に一点の曇りもない・・・

照明がゆっくりと暗くなっていく中、坪井の唇だけが微かに動いている。坪井は「三島由紀夫の辞世の句」を誦んじていたのだ・・・

益荒男が手挟む太刀の鞘鳴りに幾年耐えて今日の初霜
散るを厭う世にも人にも先駆けて散るこそ花と吹く小夜嵐

そして、闇が舞台を覆い尽くす。

九. 九段グランドパレス

グランドパレス、ロビー。
緩いイーजीリスニングが垂れ流しになっている。
映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973 年 8 月 8 日 10:16

東京都千代田区飯田橋、九段グランドパレス」

舞台中央に周囲を確認しながら坪井が現れる。
舞台袖に志村、そしてもう一方の袖に加納。二人とも耳にイヤホンをしている。

志村 （口元に左袖を近づけて、通信する）坪井だ。坪井が現れた。
加納 坪井が現れたか・・・
志村 あの野郎。人の忠告無視しやがって・・・ 錠さん、ちょっとやりづらくなっちゃったな・・・
加納 まあ、なるようになるさ。

チンッというSE。エレベーターのドアが開く。坪井がその中に消える。

志村 エレベーターに乗り込んだ。
加納 行く先は22階だな。西谷、どうだ？

ホテルのボーイの格好をした西谷。カートを持って現れる。

西谷 22階のパントリーです。
加納 坪井が上って行く。何号室に入るのか確かめるんだ。パントリーから出て、エレベーターホールに向かえ。
西谷 了解。

チンッというSE。エレベーターのドアが開く。坪井が現れる。その横をカートを持って通過する、西谷。坪井が舞台袖に歩いて消える。

西谷 2210です。
加納 隣の2210に坪井を含め5人。そして、向かいの2215に2人の計7人か・・・ かなりタフなことになりそうだ。これで全部かな？
志村 さあ？ それはわからないけど・・・ でも、奴ら、かなりの量の荷物を2210に運び込んでる・・・
加納 隣の部屋へ引きずり込み、そこでDJを殺害する。 そんな感じだろう。
志村 ようやるよ、ほんと。
加納 もうすぐ11時だ。三森。ベッドメイクの時間だ。

舞台後方に三森が現れる。メイドさんの格好。

三森 はい。
加納 とにかく2210のドアをノックしろ。まあ、入れてはくれないだろうが。

三森 了解です。

三森、舞台前方まで前進し、立ち止まりノックする仕草。
コンコンというSE。返事がないので、もう一度ノック。
舞台他方に坪井が現れる。

坪井 誰だ？

三森 お部屋のお掃除はいかが致しましょうか？

坪井 後にしてくれ。もう少し眠らせてくれないか。

三森 分かりました。お掃除が必要になりましたら、フロントに連絡を入れていただけますか？

坪井 分かった。

三森 では、ごゆっくりお休みください。(襟元のマイクに)・・・だってさ。

加納 まあ、そうだろうな。

三森 でも、相当神経質になっているみたいね。ドアを通して、緊張が伝わってきた・・・

志村 そりゃ、緊張するだろ、普通・・・

舞台袖に現れる、美紅牀。

美紅牀 現在、エントランス。DJが登場したわ。灰色のサマーウール・スーツに薄いブルーと茶色のタイ。とっても高級そう。テラー・ロジじゃない？

加納 なんだ、テラー・ロジって？

美紅牀 英国の老舗の服地メーカーよ。知らないと思うけど。靴は黒の革靴、プレーン・トゥーね。

加納 30分以内に、どうにかなるか？

美紅牀 どうにかする。髪型含めてね・・・ ボディ・ガードはエントランス内で待機させるみたい。暖、DJは一人でエレベーターホールに向かった。後は任せたわよ。

美紅牀、踵を返し、退場。

志村 DJ確認。エレベーター前に移動。乗り込んだ。

加納 西谷、三森。聞こえたか？ DJが22階に向かう。

カートを持った西谷が現れる。その傍らに三森。

西谷 了解。

加納 ここでは奴らはたぶん動かない。DJは無事、2212の梁一東の所までたどり着けるだろう。奴らが動くのはDJがそこを出る時だ。だが、何があるか分からない。もし、奴らが動いた時には、的確な行動を取れ。

西谷 的確？

加納 そうだ的確だ。拳銃をいつでも撃てるようにしておけ。

西谷 拳銃って・・・

加納 びびるな。警察官だろ？

西谷 しかし、こんなところで・・・

加納 大丈夫、もしもの時のためだ。九分九厘、奴らは行動を起こさない。今、やったら梁一東が騒ぎ出すことになる。

チンッというSE。

三森 エレベーターが着いた。
西谷 DJが・・・

西谷、三森、祈るような顔で正面を凝視している。
スカートの下に隠された銃を握りしめる三森。

三森 2210まで5メートル・・・
志村 ここで動くなよ。ここで動かれたら・・・ 頼むぜ。(手を合わせて祈る)
三森 2210まで2メートル・・・

西谷の、ごくりとつばを飲み込む音が響く。

三森 2210のドアに近づいた。
志村 飛び出してくるなよ・・・
三森 2210のドアの前！
志村 頼む！
西谷 あああっ
加・志 どうした？
西谷 すいません。緊張しちゃって・・・
加・志 びっくりさせんな！
三森 DJは2210を無事通過。2212の扉の前です。今、ドアが開き部屋に入っていきます。

息を吐く、一同。

加納 第一段階無事終了。作戦は第二段階に入る。 三森、22階の非常扉のロックは？
三森 すでに開けてあります。
加納 もう一度チェックしろ。いいか、DJが部屋から出るとき、それが勝負だ。それまでは緊張の糸を切るな。何かあったら、連絡しろ。

西谷、三森、頷き、退場。

志村 俺も22階に行った方がいいか？
加納 止めとけ。意味なく危険に身をさらすことはない。地下駐車場の車の中で待て。
志村 でも・・・
加納 待つことも仕事のひとつだ。

加納、志村、退場する。

舞台装置に仕込まれた蓋が跳ね上がる（車のトランクなんだけど）。と、現れる美英修。

美英修 きちゃいました。やっぱり、好奇心には勝てないよ。加納さんごめんなさい。(手を合わせ)これが最後。約束する。・・・にしても豪華なホテルね。みんなかなり緊張してたみたいだね。何か政治が絡んでそう。高野とかいうやーな感じのお巡りが依頼者だしね。「替え玉攪乱作戦」っ

てなに？ほんと、何が巻き起こるのか興味津々。今度「飛ばされる」のは、どんな人かな・・・
やっぱり、政府の要人だよね。

現れる女（現在の美英修）。

女　ひとりぼっちの夏休み。その退屈さの所為だ。私の好奇心は止まらない。誰に止められたって、
抑えきれものじゃなかった・・・でも、私の予想を遙かに超えて、事態は思わぬ方向に展開
していく・・・

美英修　（両腕を抱いて、ぶるっと震える）さむっ。真夏なのにさすがに地下駐車場は冷えるね。低血糖
になったら困るな。取り合えず、おにぎり食べとこ。とりあえず、半分だけ。（袋からおにぎり
を取り出し、ぱくつく）

舞台後方に坪井が現れる。

坪井　ヤツが隣の部屋に、梁一東がいる部屋に入った。1時間もしないうちに、もしかしたらもっと早
く、ヤツは部屋からたった一人で出てくるだろう。我々はこの部屋にヤツを引きずり込み、麻酔
薬で動けなくする。殺した後、バスルームで血抜き。そして、解体した死体を各自が持ち去る・・・
1時間以内に片を付ける。ヤツは失踪する。この世から消えてなくなる。誰にも知られることな
く・・・それまでは、我々はこうして息を殺しているしかない。一言も交わさず、これからす
べきことを頭の中で反芻する。何度も、何度も・・・俺に人殺しの片棒が担げるのか？いや、
迷いはすでにない。もう後戻りはできないんだ・・・

坪井、消える。舞台袖から、志村が現れる。

美英修　・・・誰か来た！あれは、ノンちゃんだ。まずい隠れなきゃ・・・
女　1973年8月8日。退屈な夏休みが一変する・・・

蓋を跳ね上げ（車のトランクなんだけど）そこに、隠れる美英修。と、同時に女も退場。
舞台中央に達した志村がポケットから車のキーを出し、チャリリと鳴らす。
舞台に唐突に闇が落ちる。高鳴るSE。暗闇の中に2本のサス。美紅牀と加納。

美紅牀　現在、23階のレストラン。準備は完了。

加納　仁は？

美紅牀　隣で「シェフいちおしプルニエランチ」というの喰ってる。「これが最後の食事かもしれない」
とか言いながらね・・・

加納　仁には悪いが、速攻で口の中に納めるように言ってくれ。

美紅牀　DJが帰りそうなのかい？

加納　盗聴している内容から察するに・・・すぐにレストランを出て、非常階段に向かえ。そして2
2階に降り、扉の外で待て。そこに着いたら連絡をくれ。西谷、三森、聞こえるか？

美紅牀消え、西谷と三森が現れる。

三森　聞こえます。

加納　西谷は？

西谷 ここに・・・
加納 いよいよだ。何かあったときには、飛び出せる準備をしておけ。ただ、それまでは不穏な態度を絶対に取るな。いいな、お前らは只のホテルのボーイとメイドなんだ。
三森 分かっています。

隠し持った拳銃を握りしめる二人。
舞台後方に、坪井。

坪井 壁にコップを押し当て、気配を探っていた劉永福が、立ち上がり小さく頷く。全員が立ち上がる。いよいよ作戦開始だ。金東雲がハンカチを麻酔薬で湿らせる。睡眠薬を溶かした栄養ドリンクの瓶。意識を失ったヤツの喉に強引に流し込むためのもの。バスルームには鋭利なナイフに、解体用ののこぎり・・・

加納 どうだ？

美紅牀 仁といっしょに２２階の非常扉前。

加納 扉の開閉は？

美紅牀 チェック済み。

加納 ２２１２の扉が開いたら、飛び出せ。例え奴らが、廊下に出てきたとしても、２２１２の扉が目隠しとなって、お前らは見えない。うまくやれ。いいな。それから、仁にこう伝えてくれ。「死ぬなよ。」

美紅牀 ・・・仁の言葉を伝えるよ。「死ぬかよ。」だって。

三森 西谷さん、隠れて！ ２２１０、奴らの部屋のドアが微かに開いてる。廊下の気配を探っているみたい。

加納 向かいの部屋は？

三森 ２２１５は開く気配なし。

坪井 もうすぐドアが開き、ターゲットが現れる。彼らは迅速に反応するだろう。うまくいく。すべてうまくいく・・・

気付くと、坪井の両脇に背広姿の二人の男が立っている。一人は手にはハンカチ。そしてもう一方の男は栄養ドリンクの瓶を持っている。

西谷 ドアが・・・

三森 ２２１２の扉が開く。完璧に開いた！

加納 今だ。紅牀！

美紅牀、頷き、脱兎のごとく退場。

舞台奥から、灰色のスーツの男が、正面に向かって歩いてくる。足を引きずるように、独特な歩き方で。逆行で顔は判然としない・・・

坪井 扉が開いた。ヤツが出てくる！ 扉が閉まった。歩いてくる灰色のスーツ黒い靴。

灰色のスーツの男が、舞台の最前面まで歩みを進めた。と、坪井の両脇にいた二人が飛び出し、その男の両脇に詰め寄り、そしてハンカチを・・・

飛び出そうと身構える、西谷と三森・・・

だが、その刹那、灰色のスーツの男が雄叫びを挙げる

「なにさらしとるんや、こらあ！」

怯む二人。スポットが灰色のスーツの男を照らす。その灰色のスーツの男は、DJではなく・・・変装した二木である。

二木 （ステッキを振り回し）やんのか、んー？
坪井 （飛び出してきて）か、関西弁！？ こいつ違う。（KCIAの二人に）アニヨ。チャルモツハダ！
[いや。間違えている！] 違う、こいつは日本人だ！ ターゲットではない。
二木 東京はなんちゅうところや。ホテルで急にどつきあうんが、流行っとるんかいな？

銃を納め駆け寄る西谷と三森。

三森 いかが致しましたか？
二木 何でもない。ちょっとびっくりしただけや。（西谷に）こら、おまえ。エレベーターのボタンおさんかい。気のきかんやっちゃの一、ほんま・・・

退場する、二木、西谷、三森。混乱している坪井とKCIAの男達。

坪井 ここにきたのはターゲットではなく、あの男？ いや、俺は確かに・・・ まだ、梁一東の所に？
（駆けていき、ドアを開け放つ仕草）デジュン・オディエ・イッスムニカ！ ヤツは何処にいる！
いない。一体何処に消えたんだ・・・

狐につままれたような顔をして立ちつくす坪井とKCIAの男達。舞台袖に美紅牀。

美紅牀 上の23階に非常階段で上り、無事エレベーターで地下駐車場に向かっている。もうすぐ着くよ。
加納 暖、エンジン始動。エレベーターに横付けしろ。DJは？
美紅牀 私の言うことを信じてくれて、そして素直にしたがってくれた。もしダメなときにはと思って、ナイフ待ってきたけど使わずに済んだ・・・（間）・・・（傍らのDJに）ああ、そうか、あんた、日本語分かるんだったね。
加納 仁の方も無事だ。西谷、三森と一緒に、地下駐車場に向かっている。お前は、DJと暖の車に乗れ、高野の指定した場所で会おう。西谷、聞こえるか？
西谷 （飛び出してきて）現在、地下駐車場。
加納 エンジンかけとけ。俺も今からそちらへ向かう。
西谷 了解。（駆け去る）

加納、踵を返し、走り去る。
取り残された坪井とKCIA。

坪井 一体、なんなんだ？ あの男は最初からいたわけではない・・・ では、どこで？ ちょっと待て、あの男、どこかで・・・ どこかで・・・ 待てよ・・・（気付いて）あいつは！

坪井の驚愕の表情を残し、舞台は暗転する。

十．厚木へ

舞台上に西谷、三森、二木、そして加納。

西谷の運転する車の中である。

三森 うまくいきましたね、「替え玉攪乱作戦」。

西谷 でも、加納さんに見せたかったな、あの時の奴らの顔！ 狐につままれたっていうのはああいふこと言うんでしょうね。

三森 完全パニックに陥ってました。あれじゃ冷静な判断を期待する方が間違ってます。非常階段使って上の階に行き、そこからエレベーターで地下駐車場までなんて、落ち着いて考えれば分かるはずなのにね・・・

西谷 だけど、ほんとに肝冷えたよ。こんな体験出来ることなら、したくないね。

加納 心配するな。したくたって、出来ないさ。DJを高野に引き継いだら、解散だ。夕方の新幹線で大阪に帰れる。

二木 エキサイティングさの欠片もない警察官の平常職務を粛々と進めるこったな・・・

加納 今回のでサッチョウに恩を売ってるんだ。美味しいこともあるだろう。それを期待している。

三森 あの、私、波瀾万丈がちょっとだけ好きになっちゃったんですけど・・・

加納 調子に乗るな。平凡が一番だ。

三森 はい・・・

加納 仁。

二木 なんだ？

加納 よかったな無事で・・・

二木 まあな。でも、実際覚悟したよ、最悪の展開を・・・

加納 すまなかったな、ほんと。

二木 いや、こちらこそ。いつも修羅場くぐってもらってるのは、暖と錠さんだ。実際やってみて仕事の辛さが分かったよ。こっちこそ、「今まですまなかった」だ。（さっきからごそごそ何かやってたようだが・・・）これでよし、と。無線機のセットが終わった。広域で話せるぞ。

加納 暖に連絡を取ってみてくれ？

二木 了解。（ハンドセットを掴み）暖、聞こえるか、暖？

舞台袖より飛び出してくる志村。

志村 おっ、仁か？ 連絡来ないんで冷や冷やしたぜ。

二木 暖、今どこだ？

志村 東名を西に向かって進行中。今、川崎過ぎた辺りだ。厚木までは30分もかからないよ。

加納 （二木に）代わってくれないか？

二木 ああ。（と、ハンドセットを渡す）

加納 加納だ。暖、聞こえるか？

志村 ばっちり聞こえてるよ、錠さん。

加納 DJは？

志村 後ろの座席で、ママと話してる。今までの経緯をかみ砕いて聞かせてるって訳・・・

加納 様子はどうか？

志村 韓国語がそれほど達者じゃないんで、すべてを理解することは出来ないが、DJとしては、「まだ、俺たちを訝しんでる」・・・そんな感じか。

加納 だろうな。とにかく、俺たちは厚木で高野に引き渡す。後は公安の、いやもっと上のマターだ。

俺たちには関係ない。

志村 そうだな。指示された場所には何時到着予定だ？

加納 俺たちの車も東名に入った。間をおかず到着できるだろう。

志村 厚木まで行かず、町田で降りればいいんだよな。そんで、246を・・・

と、二木がハンドセットを加納から奪い取る。

二木 暖。とりあえず通信を切る。傍受の可能性はある。

バチンと通信を切る二木。

志村 おいおい、何だってんだよ、急に・・・（と退場する）

西谷 どうしたんですか？ 傍受って？

二木 俺も初めての最前線任務で興奮していたのかもしれない・・・ 気付くべきだった。あそこにいたのはK C I Aだけじゃない。坪井だ。坪井もいたんだ。

加納 つまり・・・

二木 坪井は自衛官時代の部下だ。つまり、俺の面はすでに割れていると考えた方がいい。

加納 変装していたからばれてはいないというのは希望的観測か？

二木 そうであればいいと願っちゃいるが・・・ 坪井は俺たちが「飛ばし屋」をやっていることも感づいているし・・・ それに、今D Jが乗っている個人タクシーのナンバーや車両番号を知っている可能性がある。

加納 どうしてだ。

二木 暖が、ヤツを乗せた。

加納 情報を得るために？

二木 いや、ヤツを救うために。今回のヤマから手を引かせようとした。でも、あいつは俺たちの言うことを聞かず・・・ とにかく俺たちが使っている VHF 無線は秘匿性がほとんどなく、傍受が容易だ。坪井が俺の存在に気づき、傍受を指示していれば・・・

西谷 それって杞憂でしょう。

三森 そうですよ。その人だってパニックに陥っていましたから、そんなこと・・・

二木 俺も杞憂に過ぎないと思う。だが・・・

加納 ヤツの後ろにはK C I Aがいる。200人以上のエージェントを擁する専門諜報機関が・・・

二木 暖のタクシーを捜すことなんか朝飯前かもしれない。

加納 西谷、急ぐぞ。暖のタクシーに追いつくんだ。

西谷 はい。

加納 俺たちはチームだ。D Jの引き渡しが終わるまではな。ボディ・ガードであるお前達は、俺たちを守る義務がある。忘れるな。

西谷 忘れていません。すべてが終了するまでは、あなたに従います。

三森 だって、チームですもの。

と、駆け去る四人。

暗転。

十一．引き渡し

蝉が鳴いている。

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973 年 8 月 8 日 13:52

神奈川県大和市。米海軍厚木海軍飛行場近傍某所」

舞台上に高野が立っている。ハンドトーカーで会話している。

高野 ……午後 1 時 13 分、加納らはターゲットの奪取に成功しました。現在、こちらに向かっています。現場に極秘に配置していた者からの連絡では、K C I A は現場から逃走したとのことです。 ……申し訳ございません。間をおかず、配置していた捜査官全員を 22 階に急行させたのですが …… しかし、彼らが殺害のために準備した装備のすべてを押さえているとのことです。これもまた外交取引のためには切り札となるべきもの。 ……はい、特命の意義については十分に理解しているつもりです。あと 1 時間もしないうちに、受け渡し成功の報告が出来るものと思っています。 ……では。

ハンドトーカーを切り、まわりを見渡す高野。

高野 ……米海軍厚木基地。張り巡らされたフェンスの向こうの広大な土地。そこは日本ではない。朝鮮戦争では、一体何千機の、いや何万機の軍用機が離発着したのだらう。当時、ここはアメリカによるアジアの覇権争いの要のひとつであった。現在では、一部が海上自衛隊に移管され、共同使用という形態をとっているが、結局、アメリカの飛び地ということに変わりはない …… アメリカは、韓国に関して共産化を避けつつ緩やかな民主化を進めること、すなわちアメリカの扱いやすいような国になるように誘導したがっている。そのような文脈の上では D J はまさにジョーカーなんだ。民主化の鍵であるとともに、共産勢力拡大の推進力となりうる。D J をアメリカに渡したところで、彼が政治的に自由に振る舞えるということはないだらう。アメリカは D J を軟禁状態に置くだけだ。身柄の保護なんて、体よく言ったところで、実際は飼い殺した。そうだらう？ ……滑走路の上に陽炎が立っている。真夏の空気はそよともそよがず、私が立っている基地に近い空き地もむせ返るほどの草いきれで …… この空き地、まるで国境の緩衝地帯のようなこの空き地で、狂ったように蝉が鳴き続けている ……

背後に現れる 2 名の黒ずくめの男。高野は振り向きもせず、声をかける。

高野 やっと、来ましたか。お待ちしておりました。D J もまもなく現れることになっています。ほら、そこに見えてきました ……

現れる加納、二木、西谷と三森。

高野 ご苦労様でした。うまくやりましたね。

加納 ……

高野 西谷、三森両巡查部長もご無事で何よりです。

西・三 ありがとうございます！（敬礼する）

加納 さあ、早く取引を終わらせよう。

高野 D Jは？
加納 D Jは今、暖のタクシーの中にいる。
高野 何故連れて来ないのですか？
加納 俺たちがそこへ案内する。人が決めたランデブー・ポイントで取引するのは気が引けてね。
二木 常に警戒を怠らない。どんな罠が仕掛けられているか分からないしね。
高野 罠って、私たちは味方でしょう？
二木 人の弱みにつけ込んで仕事を強制するヤツが、味方だって？
高野
加納 （黒服の男達に）そちらが、C I Aの連絡員って訳か？ 一応、D Jには概要を話してある。彼はアメリカには飛びたくないと言っている。それに亡命の意志もないそうだ。詳細を説明し、説き伏せることが必要だな。
高野 老婆心ながらの忠告、ありがとう。では、案内して貰いましょう。
加納 すぐその灌木の向こうだ。

加納、みなを先導して動き出す。
その刹那、その行く手で、銃声が響き渡る。驚く、みんな。

高野 なんだ？ なにがあった？

黒服は銃を引き抜き、駆け出そうとする。
と、今度はすぐそばで銃声。
二名の黒服が倒れる。撃たれたのだ。
物陰から坪井と一人のK C I A工作員が現れる。

二木 坪井！
坪井 二木三佐。いや、二木。よくもコケにしてくれたな。D Jは貰っていく。
二木 待て、坪井。俺は. . .

歩み寄ろうとする二木の足下に坪井の拳銃から銃弾が発射される。

坪井 もう、邪魔はさせない。

銃口が二木の胸を向き、銃弾が発射される。
身を挺して、二木にぶつかる西谷。と、引き抜いた西谷の銃口が火を噴く。
銃弾がK C I A工作員の肩を蹴る。

坪井 劉（ユ）！ 畜生！

坪井銃口を向けるが、二つの銃口が自分を狙っていることに気付く。
三森の、そして拾った拳銃を構える加納の二つの銃口。
舞台袖から、叫び声。「キョンチャル！ キョンチャル！」（これは志村の声。機転を利かせたって訳。）
びくりとする坪井とK C I A工作員。

坪井 キョンチャル？ 警察？ 畜生、行くぞ、劉！ カジャ！ [行くぞ]

脱兎のごとく退場するふたり。

入れ替わりに、美紅牀を抱え、倒れ込むように志村が入ってくる。

志村 奴らに、K C I Aに、D Jを持ってかれた。それに紅牀が・・・

加納 （美紅牀を抱き留め）撃たれたのか、紅牀。

美紅牀 錠・・・（何かを言おうと必死になっているが、気を失ってしまう）

加納 （美紅牀を抱きしめ）紅牀！ しっかりしろ！ 紅牀！

志村 錠さん、大丈夫。気を失ってるだけだ。でも、この腹の傷、そんな軽いもんじゃ・・・

加納 高野、救急車だ！

高野 ・・・・（放心したように突っ立っている）

加納 何やってる。ハンドトーキーを使え！

高野 ・・・・（放心したように突っ立ったまま）

加納 高野！

二木 錠さん。西谷が！

加納 どうした？ （志村に美紅牀を預け、西谷に駆け寄る）西谷？

西谷 守ったでしょ。ぼくはボディ・ガードだ。だから、守った。加納さん言ってた。俺たちはチームだ。

加納 西谷。もう喋るな・・・

西谷 （消え入るような声で）言ってた。俺たちはチームだ。俺たちはチーム・・・

西谷の消え入るような声が不意に途切れ、同時に呼吸も止まる。

三森 西谷さん！

西谷に駆け寄る三森。

加納 高野。早くしろ！ 救急車だ！ それから、暖のタクシーを指名手配！ もう、隠密行動なんてとっている時じゃない。広域捜査に切り替えろ。なんとしてもD Jの命を守るんだ。

高野 （消え入りそうな声で）聞こえる？ 現場に救急車を・・・

遠くから、救急車のサイレン。ゆっくりと、暗転。

十二．病院で

館内アナウンスが流れている。

「吉崎先生、吉崎先生、緊急治療室まで連絡をお願いいたします・・・」

「磯村さん、時田さん診療室にお入りください・・・」

待合室のテレビから、緊急ニュースの音声が漏れている。

「一昨年の韓国大統領選挙で朴正熙大統領を相手に善戦し、わずかの差で落選した韓国新民党、金大中前議員が、白昼、都内のホテルから失踪しました。警察は金大中氏が何らかの事件に巻き込まれたものと見て、現在行き先を捜しています・・・」

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973 年 8 月 8 日 15:02

神奈川県厚木市水引。厚木市民病院、待合室」

病院の待合室。加納が佇んでいる。

志村が現れ、加納に声をかける。

志村 ママは大丈夫だって。傷は深いけど、命に別状はないって・・・
加納 紅牀には？
志村 仁が付いてる。

高野が現れる。

加納 西谷は？
高野 （首を横に振り）
加納 そうか・・・
高野 ミッションは失敗です。完全に・・・ 事件も公にしてしまった・・・
加納 DJの命を守るには、情報を公にするのが一番だ。奴らもおいそれとは手を下せなくなっただろう・・・ しかし、俺もK C I Aを甘く見過ぎていた。
志村 違う。錠さんの所為じゃない。坪井だ。俺たちがもっと気を付けていれば・・・
加納 とにかく俺たちは失敗したんだ。紅牀が無事だったのは不幸中の幸いだが・・・
高野 完全なるミッションの失敗・・・
志村 何言ってるんだよ。あんたら警察はまだ仕事があるだろう？ 奴らとつつかまえて、DJを救い出すんだろ？ 西谷の弔い合戦するんだろ？
高野 ああ、そうしたい。出来るもんならそうしたい。（逆ギレ）でも、これは外交上の複雑な問題をはらんでいるの。だから・・・
志村 だからもくそもねえ。早くDJを救い出せっていつてんだ！ このままだと・・・
加納 （志村を制して）なあ、高野。さっきから考えているんだが、どうして、今回こんな隠密作戦をしなければならなかったんだ？ DJの命を救うだけなら、もっと堅実な方法があっただろう。俺たちみたいな犯罪者を手先にして、人知れず行おうとした真意は何だ？
高野
加納 お前とともにいたC I A側の通信員。あの拳銃はブローニング・ハイパワーだった。それも製造元のFNの刻印が付いていなかった・・・
高野 ！

加納 そのような銃を持っているのは・・・
志村 北朝鮮！？
加納 そう、北朝鮮の工作員ぐらいた。高野、お前は誰と取引しようとしていたんだ？
高野 ・ ・ ・ ・ ・
志村 高野、お前！
加納 アメリカへのＣＩＡの専用機なんてものは存在したのか？ そんなものはなっから・・・
高野 ・ ・ ・ お察しの通り、そんなものはありませんでした。
志村 なんだって！
高野 私たちの取引先はアメリカなんかじゃありませんでしたから・・・
加納 やはり北が相手か？
高野 「青瓦台が、韓国政府がＤＪを暗殺しようがしまいが、問題はそこにではなく、日本国内でやられ、それが公になるのは困る。」それが政府の本音だったのです。暗殺計画が察知されてからと言うもの、日韓関係に必要な以上の波風を立てずに、どうにか出来ぬものと日々討議が重ねられていました。そして、結論の出ぬまま空転する会議に妙案を持ち出した者がいたのです。我々のＯＢでもある官房副長官です。

加納 後藤田か・・・
高野 内閣から言質を取った彼が、我々チヨダに下した指令は・・・ 「ＤＪを北に渡せ」という驚くべきものでした。３年前のよど号ハイジャック犯の国外追放がその見返りです。

志村 お前、それじゃ人身売買みたいなものじゃないか？ ＤＪの人権は？ 一体、上の奴らは何を・・・
高野 ＤＪは我が国においても、ジョーカーだったのです。韓国民主化のキーマンであるとともに、共産革命や大規模動乱の核ともなり得る。味方の様に見えても、何時敵になるとも限らない危険性をはらんでいた・・・ いいですか、政治の世界では時として個人の人権など無視され得るんです。戦争がそうであるように。官房副長官にも信念はあるです。田宮高麻呂たちを放っておくことは、必ずやこの国に災いをもたらす。彼はそう信じている。私もその考えには賛成です・・・

逆ギレに近い調子で声を荒げる高野の背後で声がする。三森である。

三森 高野警視正。今の話は本当ですか・・・
高野 三森・・・ 聞いていたのか？
三森 私は知らないうちにそんな謀略に荷担していたんですか？ そんな政治的駆け引きなんて警察官の仕事じゃない。そんな人の人権を踏みにじるようなことをするために、私は志願したんじゃない。西谷さんだってそうだ。人の命を救う。そのために私たち警察官はいるんです。西谷さんは、そうして殉職した。政治家や官僚のつまらない駆け引きの捨て駒に使われることなんか望んでいない。

三森、高野に詰め寄っていく。

三森 くそ官僚（キャリア）が・・・

と、飛び込んでくる二木。

二木 錠さん。ここにいたのか。紅牀が・・・
加納 どうした？
二木 さっき意識が一時的に戻って・・・ で、変なことを俺に・・・ 錠さんに言えば分かるからって言って。うわごとみたいに繰り返して、「タクシーを奪われたその時に見た。英修がトランクに

いた・・・ あの子を助けて」って・・・

加納 英修がトランク！？ 紅牀は見たんだ。タクシーを奪われたその時に！

志村 英修ちゃんがトランクって？

加納 あいつ。強奪されたタクシーのトランクに隠れていたんだ！

二・志 なんだったって？

加納 最近、あいつは俺たちの商売のことに興味津々で、スパイまがいにタクシーのトランクに隠れて付いてきたりしていたんだ。気付いて注意はしたんだが・・・

志村 じゃあ、英修ちゃんは？

加納 DJとともに奴らに拉致されたってことだ。あの子の病気のこともある。1秒も無駄に出来ないな。高野、強奪されたタクシーは検問にかかってはいないよな。奴らの逃走方向はどちらだ・・・

高野 分からない・・・

加納 高野！

高野 捜査本部では東京に舞い戻ってきたのではなく西の方向に逃走中と読んでいる・・・

加納 お前の意見は？

高野 西だと思う・・・

加納 ありがとう。暖、今から西に向かうぞ。車の用意。仁は「来夢来人」に帰って情報収集を。おっと、その前に、紅牀のバッグから英修の注射器をとってきてくれ。緊急の時のためにいつもグルカゴン注射器を持っていたはずだ。

二木 インシュリンじゃなくて？

加納 グルカゴン。小児糖尿病で本当に危険なのは、低血糖症に陥ったときリカバリーが効かないってことだ。昏睡から死に至る可能性もある。

志村、二木、頷き、駆け去る。

行こうとする加納を三森が呼び止める。

三森 私も連れて行ってください。ボディ・ガードとして。いえ、もし奴らが向かっているのが関西だったら、きっとガイドとして役に立つ。地元ですから・・・

加納 ありがとう。ガイドを頼む。

三森 はい。

加納 高野、お前は どうする？ このままサッチョウの机で更迭されるのを待つか？ それとも、DJの命を救いに行くか？ 人の命を救うために警察官はいるんだろ？

退場する加納と三森。

うつむいていたが、何かを払拭したように顔を上げ、ふたりを追いかける高野。

十三. 西へ

膝を抱え座り込んでいる美英修をサスが浮かび上がらせる。舞台の袖に女（現在の美英修）が立っている

女 その時のショックをどう表現すればいいのか、私にもうまい言葉が見つからない。自分の目の前で母親が撃たれたのだ。そばに駆け寄ることも出来ず、私は・・・

美英修 どうしよう。ママが撃たれた・・・ ノンちゃんの叫び声、「ママ逃げろ！」 私はトランクの蓋をそっとあけた。隙間からママの姿が見えた。ママの目と私の目が合い、ママは私に向かって一歩踏み出す。その時だった。ママは目に見えない大男に蹴られたかの様に後ろに突き飛ばされ、倒れた。車がタイヤを軋ませて急発進する。反動でトランクが閉まり・・・

女 私は暗闇の中でただ震えるしかなかった。震えながら、私は自分自身を責め続けた。加納さんとの約束を破ったからだ。約束を守らなかったから、ママが撃たれた。全部自分が悪いんだ・・・

サスがクロスフェードで他方を照らす。
そこに浮かび上がる坪井。

坪井 DJの誘拐がニュース報道され、広域での検問が始まった。もはや高速は使えない。警察無線を傍受し、検問をかわしながらゆっくりと一般道を進むしかない。地図とにらめっこしながら、警察無線の内容を分析し、安全なルートを割り出す。この上もなくタフな仕事だ。肩を撃たれた劉永福の具合が思わしくない。急がなくては・・・ しかし、捕まっては、元も子もない・・・

サスがクロスフェードで女と美英修に。

女 恫喝するような叫び。言い争うような会話。車内から漏れてくるのは、日本語じゃなかった。韓国語だ。意味は全く分からない。やがて、私も殺されるんだろう。ママみたいに、銃で撃ち殺される。怖かった。心の底から怖かった。怖かったのは、殺されることそれ自体ではなく、訳が分からないまま殺されてしまうことに対してだ。「どうして？」と尋ねたところで、私に理解できる言葉で説明してもらえないことはないんだ。

美英修 寒い。体温が下がって来てる・・・ 低血糖になり始めてるんだ。とりあえず残しておいたおにぎりを食べなきゃ・・・ 半分のおにぎり食べなきゃ・・・ でも、その後は。このままだと低血糖症に陥り、最後には昏睡状態になって・・・ グルカゴンは？ 持ってきてない。こんなことなら、持って来ればよかった・・・

女 おにぎりを食べながら、私は泣いていた。悲しいからではない。これから殺されるっていうのに、血糖値コントロールのことを考えている自分自身が無性に可笑しく、そして哀れでならなかったから・・・

サスがクロスフェードで坪井に。女、退場する。

坪井 尹鎮遠からの提案。「このまま、奪ったタクシーを乗り続けるのは危険が大きい。DJをこちらに載せ替え、タクシーを破棄する。」幹線道路から少し離れた宅地造成地。行き交う車はない。俺たちは車を止め、DJを、ガムテープでぐるぐる巻きにされたその男を、タクシーから引きずり出し、後部座席に押し込めた。柳忠国が指紋をふき取ろうと車内を急いで拭いている。俺はなにげに、トランクを開けた・・・

カチャっというトランクの開くSE。驚く坪井。
美英修が涙に濡れた顔を上げ、消え入るような声で呟く。

美英修 ドワジュウセヨ・・・ 助けて、助けて下さい・・・
坪井 そばにいた劉永福が驚いて銃口を向ける。「ハジマ！」 止めろ、と叫んで、劉の銃口を下げさせた。(美英修に) どうしてここにいる？
美英修 (ただ、首を横に振る)
坪井 お前、日本人か？
美英修 (ゆっくりと頷く)
坪井 あっちの車に移れ。

美英修、坪井退場する。
電話のベル。舞台袖に現れる二木。そして、他方に加納。

二木 (受話器を取る)
加納 仁か？
二木 待ってたぞ、連絡。今どこだ？
加納 上郷サービスエリア。名古屋だ。
二木 愛知にいる傍受マニアから、情報が入った。暖のタクシーが愛知県岡崎市の宅地造成地で乗り捨てられた状態で発見された。
加納 英修は？
二木 車の中はもぬけの殻だそうだ・・・

わらわらと集まってくる、志村、三森、そして高野。

加納 (志村に) 岡崎でタクシーが発見されたそうだ。中はもぬけの殻・・・
志村 じゃあ、英修ちゃんは・・・
加納 DJとともに拉致されたか、さもなくば・・・
志村 滅相もないこと言うなよ！
二木 錠さん。聞いているか？ 奴らは一般道で検問を避けながら西へ逃走を続けている。奴らに比べれば、高速を使える俺たちの方に利があるわけだ。
加納 で、奴らの行く先については？
二木 判然とはしないが、ひとつ気になる情報がある。別班三課の情報なんだが、大阪港のライナー埠頭に韓国籍の竜金丸という貨物船が停泊中だ。どうもそいつがKCIA工作船らしいんだ。大阪埠頭公社に探りの電話を入れてみたところ、その竜金丸が急遽出航することになったらしい。くさいとは思わないか？
志村 (二木の声に耳をそばだてていたが) それだぜ！ きっと！
加納 (高野に) どう思う？
高野 事件が公になった以上、奴らは国内での殺害は行わないだろう。公海上に連れ出し、そこで行う可能性が高い。
加納 ありがとう。仁。大阪に向かってみる。(三森に) ライナー埠頭は？
三森 舞洲埠頭の南。咲洲にある。
加納 行くぞ、暖。(と、電話を切ろうとする加納を、二木が制する)
二木 待て、錠さん。高野のハンド・トーキーはそこにあるか？
加納 車の中だが・・・

二木 高野に代わってくれ。
加納 (高野に受話器を渡す)
高野 高野だ。
二木 お前の使っていた通信機、スクランブルは付いているか？
高野 スクランブル？
二木 秘話装置のことだよ。公安なんだから使ってるんだろ、当然。
高野 ああ。付いている。
二木 それはMPR-10A、通称「10番A」と呼ばれる警察庁の最新型だな？
高野 どうして、それを！
二木 蛇の道は蛇。それを車の中にある俺の通信セットにつなげ。たぶん奴らに知られることなく無線で交信できる。
加納 (受話器を奪い取り) 仁、俺だ。
二木 錠さん、飲み込めたか？ 今後はその通信機でやりとりをする。ボンネットの上の広帯域受信用アンテナを限界までのばしておいてくれ。
志村 さすが、別班のCOMINT (コミント：通信傍受) の鬼と呼ばれた二木仁だな。
二木 早く行け！
加納 仁、ありがとう。

電話が切れるSE。

加納 大阪に急ごう。

全員頷くが・・・

志村 でも、行ったところでどうする？ 俺たちだけで・・・
三森 栢木警備部長・・・
高野 ！
三森 そうです。栢木警備部長に相談すれば・・・
志村 栢木警備部長？
三森 私をこの特命に抜擢した上司です。高野警視正とは同期と伺っています。今回の件に関しても・・・
高野 栢木有美・・・
加納 どうした？
高野 なんでも・・・ 分かったわ。私から状況を説明する。しかし、警察力に頼るとなると、あなたたち(加納・志村)はタッチできなくなる。それでもいいの？
加納 (頷き) 急ごう。

全員頷き、脱兎のごとく退場。

十四．大阪港、ライナー埠頭

舞台奥に膝小僧を抱え、座っている美英修。傍らに女（現在の美英修）が立っている。

- 女 ……どこか遠い街。その街のマンションの一室に連れて行かれた。4人の男達。表情に乏しく、みな同じ顔に思えた……
- 美英修 その中に、日本語のうまい人がいて…… きっと、日本人だと思う。でも…… その人が、何度も尋ねる。「どうしてトランクの中にいたのか」って…… でも、私はただ首を横に振るだけ。どう答えていいのかわからなかった…… それ以上に怖くて…… 唇が震えて一言も、本当に一言も言えなかった……
- 女 彼は私にこう言った。「誰もお前を殺したがないし、俺だって殺したくない。しかし、ここで放り出してしまうわけにもいかない。韓国に行って貰うことになるだろう……」私は、その言葉を信じなかった。私はきっと殺されるに違いない。また、彼の言葉が仮に本当だったとしても、いずれ私は死ぬんだ。血糖値が下がり続け、やがて昏倒し、痙攣を繰り返し、そして冷たくなる……

舞台上に坪井。照明がクロスフェードで振り替わる。

- 坪井 大阪のアジト。大阪総領事館の職員がやってきた。みな一様に青い顔をして…… 青瓦台から、指令があったのだ。ことが公になった以上、日本国内でのDJの殺害はあきらめろとのことだった。俺は、早期の殺害を提案した。しかし、上からの指示に逆らえる者はいない…… DJは大阪湾に停泊中の工作船で、国外へ運び出されるという。乗船するのは朴廷烈と鄭雲吉。ともにKCIA 8局の単なる工作団員だ。工作団長の尹鎮遠を始め、幹部クラスは誰も乗らない。彼らでは役不足だ。いざというときに尻込みするに決まっている。俺は乗船させてくれと頼み込んだ。「もう日本国内に自分の居場所はない。韓国の南山で、海外情報局で働かせてくれ。韓国語の会話に問題はないし、それに俺は陸上自衛隊調査部にいた。きっと役に立つことが出来る。こんな腑抜けた国にはもういたくないんだ！」俺は、涙を流して哀願する演技までした。1時間の後、俺の乗船は李厚洛KCIA部長により認められたと伝えられた。これでDJの殺害に手を貸すことが出来るだろう。いや、俺が手を下すんだ。容共の輩に、アジアの敵に、左翼の馬鹿どもに祭り上げられた偶像に…… この国も韓国も強くあらねばならぬのだ。アカをこれ以上のさばらせておくことは看過できる問題ではない。亡国に結びつく非常事態なのだ。DJを殺す。それが防共の第一歩だ。俺がこれだけ志気が昂揚しているのと対照的に、みんな脅え切っていた。何をそんなに脅えているのか、俺には分からなかった……

坪井の言葉の途中から、徐々に照明が暗くなっていき、そして、舞台は暗闇となる。

暗闇の中、霧笛が響き始める。

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973年8月8日 19:43

大阪市港南地区。ライナー埠頭」

青白い照明。ここは深夜の大阪港・ライナー埠頭。

舞台の上に、制服を着た女、栢木警備部長、が立っている。両脇には武装した警官。その傍らに高野と三森。栢木、手に持っている通信機に何か話しかけていたが、顔を上げ……

- 栢木 全隊配置終了。埠頭全体を監視体制に置いた。

三森 ありがとうございます。栢木警備部長。

栢木 かったるい。栢木「さん」でいい。

三森 はい。

栢木 それに、お前にお礼を言われる道理はない。命令に従っているまでだ。拉致事件が公になり広域捜査になった時点で、KCIA の関与が疑われていたし、サッチョウから大阪の韓国総領事館の監視の指示は出されていた。ここもその一環だ・・・ 高野、竜金丸が KCIA の工作船であるという情報は公安のものか？

高野 いえ。それは・・・

栢木 頷くか、首を振るかだけでいい。それ以上は知りたくない。・・・どうした、高野？ あなたらしくもない・・・

高野 栢木・・・ ごめんなさい。

栢木 何に対して謝ってる？ 私に隠し事をしたことか？ それとも・・・

高野 西谷のこと・・・

栢木 不幸なことだが、仕方がない。本人にだって言い含めてあった。命をはれるか、と・・・

高野 でも・・・

栢木 君も私も命令に従っただけ。力を貸したのは、同期のよしみからじゃない。上からの命令だったからだ。だから、西谷の遺族に関しては、上がどうにかしてくれるだろう。

三森 西谷さんに関しては、私にも責任の一端が・・・

栢木 気に病むな。君は君自身の職務を忠実に果たしたんだ。

三森 でも・・・

栢木 （三森を制して、イヤホンに手をやる）待て、通信だ。・・・どうした？・・・分かった。そのまま張り込みを続けろ。

高野 何だ？

栢木 韓国総領事館に張り付かせている奴からだ。

高野 DJ が？

栢木 いや、違う。またひとり、たぶん副領事と思われる男が館内に入ったそうだ。もう明け方近くだっというのに人の出入りがやけに多い。当然と言えば、当然かもしれないが・・・

照明が他方に振り変わる。そこには加納と志村。物陰に隠れるように膝を折っている。志村は小さな双眼鏡を覗いている。

加納 見えるか？

志村 ああ、燈火が煌々と焚かれているからな・・・ 甲板の動きが激しい。積み荷の搬入を急いでいるようだ。

加納 まさに急な船出と言った様相だな・・・

志村 でも、いいのか？ こんなに離れてちゃ、もしもの時に・・・

加納 もしもの時に、俺たちが出来ることは何だ？ 騒いだところで、警官に取り押さえられるのがオチだ。

志村 そんなこと言ったって・・・

加納 俺たちの存在なんて、もう警官達にはばれてるよ。（後ろを指さす）

志村 ほんとかよ！（振り返り、後ろを見る）俺には何も見えないが・・・

加納 四時方向、コンテナの向こう。小さな赤い光がちらちらしている。通信機の発光ダイオードの光だろう。

志村 （後ろを凝視しているが、監視に気付き・・・）畜生。高野の野郎、チクったな・・・

加納 仕方ない。奴だって手の内をすべて晒すしかなかったんだろう・・・

志村 ……錠さん。でも、奴ら本当に現れるのかな？
加納 仁の直感を信じろ。奴らはこの船に向かっている。
志村 大丈夫かな、英修ちゃん……
加納 奴らは国内でDJに手をかけることはない。英修に対してもそうあってくれればと思っている。
志村 でも……
加納 祈るしかない。……暖、監視を怠るな。疲れたら俺が代わる。(ひとりごちて) それにしても、遅すぎる。(後ろを振り返り) もうすぐ夜が明けるぞ……

照明がクロスフェードで、栢木らに移る。

高野 (驚いた表情で) タラップが外された。離岸の準備をしている？ 何故？ DJは…… DJ
を国外へ連れ出すんじゃ……
栢木 当てがはずれたか…… (通信機に向かい) 藤岡、聞こえるか？ 総領事館の様子は？ ……
分かった。監視を続けろ。さてと……
三森 高野警視正。彼らはここには……
高野 分からない。大阪市内には公安ですら所在を突き止めていないKCIAのアジトがいくつかあるはずだ。あちらの言葉で「安らぐ家」と書いて「安家」。そこに監禁されている可能性が……
栢木 いーや、違うと思うね。もはや、国内での潜伏は危険と考えてるんじゃないか？ おっと、通信だ(イヤホンに手を当て) 栢木だ。(高野に) 入り口に張り込ませてた者からだ。(通信機に向かい) ……そうか、分かった。そのまま待機。(高野に) 不審車両が、埠頭に入ってきたようだ。黒のベンツが2台。後部座席の状態は双方ともスモークガラスのため確認できず。
高野 奴らか？
栢木 とうとうお出でなすったか…… (通信機に向かい) 全員に告ぐ、不審車両が埠頭に近づいている。張り込みを悟られぬよう注意せよ。

照明がクロスフェードで、加納らに移る。

志村 係留を解いている。なんで？ このまま出航する気じゃ……
加納 右の方を見ろ。
志村 (双眼鏡を右に振り) 車だ。車がやってきた。竜金丸に近づいてくる……
加納 とうとう来たか……
志村 まだ分からない。……2台の車が船に横付けされた。男がふたり、降りる…… 後部座席から、男が降ろされる…… 目隠しされてる……

栢木らにも明かり。双眼鏡を手にした、高野。

加・桜 DJか？
志・高 (頷く)
志村 後部甲板に転がされた。待て、後部座席からもう一人…… 坪井だ。
栢木 あれが、そうか？ 元陸上自衛隊・別班の……
高野 そうだ。
栢木 ややこしい話だね……
志村 (双眼鏡を外し) 錠さん。英修ちゃんだ。
加納 (志村から双眼鏡を受け取り、目に当てる) 英修……
志村 よかった。生きてた。英修ちゃん生きてた。よかった……

高野 （双眼鏡を外し）もう一人の人質も確認した。
栢木 美英修か・・・
三森 生きてたんだ。私ほんとに、半分あきらめてた・・・
栢木 （高野から双眼鏡を受け取り、のぞく）国籍は？
高野 国籍？ お前、こんな時に・・・
栢木 国籍は？
高野 韓国籍・・・
加納 （双眼鏡を外し、周りを見回す）おかしいな・・・
志村 （双眼鏡を受け取り）おい、英修ちゃんが甲板に乗せられてるじゃないか！ 船が、船が離れ始めてる！ どうして、何故警察が動かない！

加納らの明かりが消える。

高野 車が急発進して帰っていく。それに、船が離岸する！ 栢木突入よ。
栢木 ・・・・（動こうとしない）
高野 どうして動かないの！ 水上警察署の警備艇に連絡を！
栢木 警備艇は来ていない。必要がないから・・・
三森 どういうことなんですか？ 今飛び出さないと・・・
栢木 そのような指示は受けていない。上からの指示は、「彼らに手を出すな」と言うことだ。
三森 栢木さん、あなたは・・・
高野 手を出すなって・・・
栢木 分かるでしょ、君にだって。これは微妙な問題なんだ。外交的問題を含んでいる。政府が押さえ込みにかかっているんだ。「彼らに手を出すな」ってね。警察組織が動けるわけないでしょ？
高野 じゃあ・・・
栢木 私たちは彼らが無事に国外脱出できるように警備しただけのこと・・・

飛び出す、志村。それを追って加納も飛び出して来る。

志村 何やってるんだ！ 行っちゃまうだろ！ 捕まえろ！
加納 暖、やめろ！

栢木、志村が動き出したのを見て、通信機で指示を出す。「吉岡、そのうるさい奴を黙らせろ。」警棒を持った二人の機動隊員が飛び出し、志村と加納を後ろから飛びかかり、警棒で膝の後ろを叩き跪かせた上に、後ろ手に締め上げる。吉岡の通信、「二人を取り押さえました。」

志村 おい、お前ら、何やってる？ 敵はこっちじゃない。あの船だろう！
加納 ・・・・
高野 一人の少女が拉致されているのよ！
栢木 韓国籍だろ？ 国民じゃない・・・
高野 何言ってるの！ 特別永住権を持ち、公立の義務教育を受けている。どう考えたって、この国の国民と同様に庇護を受ける立場にある。
栢木 私だってそう思う。でも、上の判断は違っていた。君も警察官僚なら分かるでしょう。上の命令には逆らえない。
三森 DJだけではなく、彼女も見殺しにするって言うことですか？
栢木 指示に従う。出来ることはそれだけ・・・

高野 栢木！

栢木 高野。立場が逆であったとしたら、君だってこうしたはずだ。間違いなくね！

高野

栢木 後半年で、本庁に戻る。こんな時に波風は立てたくない。ここで、こんなところで、出世コースから外れるわけにはいかないんだ。君を含め同期は10人足らず。その中の一人だけが、警視総監まで登り詰められる。足踏み外した君には悪いけど、私は行くところまで行く。初の女性警視総監。そんなことがもし可能なら、この旧態然とした警察機構だって、変えることが出来そうだろう？ それまでは、堪え忍ぶしかない。うまく立ち回るしかない。

高野 変わったね、栢木。学生時代のあなたは、正義感の塊だった。人権問題にだって、あなたはとても敏感で . . . 私はお前の客観的で正確な洞察にいつも感心していた。気丈な性格だけど、ほんとは優しい心を持っていて . . . それが仇にならなきゃいいって、いつも思っていた。それなのに . . .

栢木 私はあのころから何も変わってはいない。自分の信念を貫くまでだ。警察機構にはびこっている弊害を一掃する。そして本当の正義のための警察を作る。そのためには私が昇進レースからはずれるわけにはいかない . . .

三森 自分自身の出世のためには、外国籍の政治家や、いたいけな少女の命など、どうでもいいと . . .

栢木 そう言いたいのですか？

栢木 あのね、政府のそしてサッチョウの指示なの、これは . . .

加納らに明かり。

志村 畜生。何故なんだよ。奴らをここまで追いつめて、どうしてこうなるんだよ。(後ろの機動隊員に) お前ら、何のためにいるんだ？ 上の命令聞いているためだけか？ 手前自身の頭で考えろよ！ 脳みそ入ってんだろ、そのメットの中には！

加納

加納の手が、ゆっくりと腰のベルトに伸びる。そこには、拳銃があった。引き渡し時のどさくさに紛れ、隠し持っておいた「北朝鮮製のブローニング」だ。音がしないように気を付けながら、安全装置を外す . . .

と、高野が拳銃を引き抜き、栢木に向ける。栢木の両脇にいた警官は、動揺し、拳銃を抜こうとする。栢木、それを制して . . .

栢木 止めろ。サッチョウの警視正に銃口を向けたら、処分するぞ！

高野 栢木。加納と志村を解放して。

栢木 してどうする？ 竜金丸は湾内巡航速度を超えて瀬戸内海に向け爆進中。泳いだって追いつかない。

高野 そんなこと分かっている。でも、加納達なら . . . グランドパレスで見事にKCIAを出し抜いた彼らなら . . . だから . . . 彼らを解放して。

栢木 高野。君って人は . . . センチメンタルすぎて、警官には向いていない人だと、学生の中から思っていたよ。引き金引く勇気もないのに . . .

高野 お願い . . .

栢木 人に銃口向けながら、「頼む」とは、滑稽な奴だね。いいか、間違えても勢いで引き金引くなよ . . . (ゆっくりと通信機に手を伸ばし、口にあてる) 吉岡、聞こえるか？

吉岡 はい。

栢木 二人を解放せよ。

吉岡 はっ？
栢木 二人を解放しろ！
吉岡 は、はい。(隣の男に) 解放せよとの部長命令だ。

拳銃を腰に隠す、加納。志村とともにゆっくりと解放される。

志村 いったい何なんだよ。みすみす逃がしちまいやがって・・・(機動隊員に掴みかかろうとする)
加納 (志村を制して) 止めろ。行っているのか？
吉岡 (マイクに向かい) 行っているのかと聞いています。
栢木 好きなところに行かせてやれ。
吉岡 行け！
志村 何が行けど、このぼけかす！
加納 止めろ、暖。
志村 だって、こいつらの所為で・・・
加納 まだチャンスは残っている。D Jと英修を救う、わずかなチャンスは・・・
志村 どんなチャンスがあるって言うんだ！
加納 (頭を指さし) 俺たちのここには脳みそが詰まってる。救い出す方法はあるはずだ。彼らが生きている限りは・・・ 車に戻るぞ！

踵を返し、退場する加納。「憶えてろよ！」と捨てぜりふを吐き捨て、加納を追い退場する志村。

栢木 吉岡。こちらに合流せよ。
吉岡 はい。(と、退場する)
栢木 高野、もう銃降ろしてもいいだろう。
高野 彼らが無事逃げ切れたら。
栢木 しょうがないね・・・ (ふと気付いて) 君は行かなくていいの？
三森 はっ？
栢木 だから、行かなくてもいいのかって聞いているの。だって、君の特命は彼らの警護だろ？ 特命はまだ続いているんだろ。なあ、高野？
高野
三森 高野警視正？
高野 特命終了の命令は受け取ってはいない。
栢木 だってさ。早く行け！ 奴らの命を守るんだ。
三森 でも・・・
栢木 「行きたくてしょうがありません」って、顔に書いてるよ。さあ、早くしないと置いてかれるよ。
三森 栢木さん、ありがとうございます・・・(加納を追いかけようと走り出す)
栢木 (三森を制し) 待て！
三森 (立ち止まる) はい・・・
栢木 竜金丸が韓国に戻るためには、どうしても関門海峡を通過しなければならない。瀬戸内海の巡航速度をほぼ守って航行するとすれば、通過時刻は明日の昼頃。それが最後のチャンスだよ、D Jと少女を救う・・・ いいかい、警察も海上保安庁もあてに出来ない。自分らでやるしかない。それだけは肝に銘じておけ。行け・・・
三森 はい。(力強く頷き、脱兎のごとく退場)

傍らにいた警官が、栢木に問いかける。「部長、一体どういうことですか？」

栢木 いいんだよ。どんな問題がある。KCIAは何事もなく大阪管区から出て行ってくれた。私たちは命令違反はしていない。だろう？（通信機に向かい）本部長につないでくれ。・・・本部長ですか？栢木です。標的は大阪港から瀬戸内海に出て行きました。・・・加納、志村現場に来ませんでした。それに三森巡査部長の居所も確認できていません。すみません・・・はい、高野警視正の身柄は保護できました。今からお連れいたします。では。

高野 栢木・・・

栢木 って訳で、君は行っちゃダメだぞ。もうすぐサッチョウの偉いさんがこっちに出張ってくる。君から経緯を説明して貰わないと。うまく立ち回ってよ。DJの命を、美英修の命を救うためには、あなたの後方支援も必要でしょう？

高野 栢木、あなた・・・

栢木 ちっとも変わってないでしょ、学生に頃と。（おもむろに通信機を口元に持っていき、命令を発する）全部隊、撤収！

そのかけ声を合図に、舞台は暗転する。

十五. K C I A 工作船・竜金丸

舞台の上に女と美英修。

女 ……そこは薄暗くて、強い潮のにおいがした。散らばったゴミくずの中に、湿った毛布が敷いてあり、私はその上に横になるしかなかった。そしてその傍らにその男はいた。テープで顔をぐるぐる巻きにされていた。かろうじて鼻だけは出ていたので、呼吸は出来るようだったが、とても苦しそうだった……

美英修 私はおじさんの顔に張り付いたテープをゆっくり剥がしていった。少しでも痛くないようにして。テープの粘着力が強くてすぐに指が痛くなったけど、がんばった。どんなに注意深くやっても髪の毛が絡みつき、時には何十本も一気に抜けちゃう。さすがに痛いらしく、うめき声を漏してる。でも、仕方ないんだ……

女 私はもはや誰も助けに来てくれないことを自覚していた。約束を破ったのだから、仕方ないとあきらめていた。そして、ここで死んでしまうことも……これ以上脅えないために、その男のテープを剥がすことだけに精神を集中させた……

美英修 おじさんの顔が露わになってきた。もう少しだ。ゆっくり口の部分を剥がす……口が自由になったとたん、おじさんが大きな深呼吸をし、そして、痛々しいぐらいの勢いでむせた。私は手に巻き付けられたテープも剥がしてあげようと、おじさんの背後に回る。その時だった。おじさんが何か喋った。韓国語だった。私が「韓国語が分かりません。モルゲッスムニダ。」と首を振ると、おじさんは「イルボン・サラム？ 日本の方ですか？」と尋ねてきた。「そうです。」と答える。おじさんは「ありがとう。助けてくれて……」そう日本語でお礼を言ったんだ……

女 日本語を話せる。それを知っただけで、涸れてしまったはずの涙が流れでた。私は……

美英修 日本語はなせるんですね。

女 彼は「少しだけ……」と恥ずかしそうに答える。手に何重にも巻き付けられた粘着テープを剥がしながら、話しかける……

美英修 手の方は楽チンだな。髪の毛がないから……

女 彼が笑ったように感じた……手のテープを完全に取り去る。私は彼の前に回る。殴られ、腫れ上がった顔を薄暗がりの中で見つめる……

美英修 痛い、顔？

女 「顔だけじゃなく、体中……」彼はそう答えて……

美英修 ねえ、どうして、殴られたの？ 私も殴られるの？ そして殺されるの？

女 彼は一言「大丈夫。」そして、自由になった手で私の肩を掴み、もう一度「大丈夫。」と言った。でも、私には分かった。それが嘘であることが……悪気のない嘘……

美英修 だって、おじさんの表情はちっとも大丈夫そうじゃなかったから……無理に作ってる笑顔だったから……私、知ってるんだ、もう誰も助けに来ないって……

女 「どうして？」と彼。

美英修 私、約束を破ったから……だから、罰があたったの。そして、誰も助けに来てくれないの……おじさんも約束を破ったことある？

女 「たくさん」

美英修 だから、おじさんも助けてもらえない。誰も助けに来てはくれない。

女 彼がとても困った顔をする。

美英修 ごめんなさい……

女 「震えてる。」彼が呟く。私の震えはもう私自身ではどうにも出来ない状況に達していた。私の肩の震えが彼の手伝わっている……彼が私に聞く、「怖い？」

美英修 うん。怖い。でも、震えているのは病気のせい。私……分かるかな？ 小児糖尿病なの。生

活のリズムが狂うとおかしくなるんだ。その、血糖値が下がって震えが止まらなくなる・・・

女 「糖尿病？ 私の先生の病気と同じ・・・」

美英修 違う。これはおじさんなんかが罹る病気とは違って・・・（不意に言葉が途切れる）

女 不意に言葉が続かなくなる。体温が急速に失われていく・・・頭に血が上らない・・・「寒いか？」そう尋ねて、彼は私を強く抱きしめた・・・

照明が暗くなり、代わりに舞台上に現れた坪井に照明が入る。

坪井 ・・・・船は瀬戸内海の波を砕きながら、勢いよく前進している。実に気分がいい。しかしだ・・・
乗り込んだ2名の工作団員は、思った通り下っ端の上に度胸も据わっていない。通信機にかじり
付いたまま、当局からの指示をひたすら待ち続けているだけだ。声をかけると、青白い亡霊のよ
うな顔で、こちらを一瞥するだけなんだ。もちろん答えなど、端から期待してはいないが・・・
本当に無理を押して乗り込んだ意味はあった。こいつらはいざというときに二の足を踏むに決ま
っている。その時には俺がやってやる。DJの首をひっさげて南山に入城するのだ。凱歌を口ず
さみながら・・・まさに、勇敢な武士だ・・・

この世の者とは思えぬ顔をして、ほくそ笑む坪井。照明が暗くなり、その表情も闇に沈む。

十六. 下関、関門海峡

暗闇の中、二木の声がする。通信しているようだ。ゆっくりとサスが二木の姿を浮かび上がらせていく・・・

二木 こちらJK1BDF（JK1・ブラボー・デルタ・フォックスロット）。JK1TPC（JK1・タンゴ・パパ・チャーリー）へ。応答願います。・・・広島からのワッチ情報でターゲットR・K・M（ロメオ・キロ・マイク：竜金丸のこと）のQTH〔位置〕が特定できそう。広島・山口のローカルでワッチは続行とのこと。QSP〔中継〕はスタンディングバイで、どうぞ。・・・ありがとう。本当に助かったよ。73（セブンティスリー：さよならの意）【ここで用いられているハム（アマチュア無線）用語について、なんのこっちゃ分からないとは思うけど、気にするな。いいじゃん、「ぼを・たんつ」ぼくって。ははは・・・】

二木、通信スイッチを切り替える。

二木 錠さん。応答してくれ・・・聞こえるか？ 竜金丸の位置が特定できた。広島と山口のハム仲間が船舶無線の傍受をしてくれた。・・・そう、持つべき友は傍受マニアだよ。笑いごっちゃないが・・・で、竜金丸は現在、広島沖、安芸灘を航行中。10ノットで航行中だが、この分なら、伊予灘に出たところで12ノットまで加速するだろう。逆算して関門海峡通過は明日の午前9時から10時の間だ。

二木への照明が消え、退場。

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973年8月8日 22:31

山口県下関市。関門海峡」

大きな鞆を大事そうに抱き、こそこそと現れる一人の男。普通ではないくらいにビクついているのが、滑稽を通り越して哀れという他はない。よく見ると、この男、冒頭に現れた「飛ばし」の依頼人、桜田である。

桜田 どうしよう・・・ どうしよう・・・ 街中、平松組で溢れてる。フェリー乗り場だけでなく、駅も、全部・・・これじゃ、何処へも行けない。「飛ばし屋」の連絡先もうろ覚えで、助けて貰うことも出来ない。あああ・・・もう進退窮まったの？ 有価証券しこたま詰め込んだこの鞆が重い。死にたくなるくらい重い。このままじゃ、このお金だって使う暇もなく・・・私、平松組に沈められちゃいますか？ コンクリートの靴を履いて、ぶくぶくって・・・だめだめ、悲観的になっちゃダメ。きっと助けてくれる。誰かが助けてくれる・・・

ビクつきながら、退場する桜田。

入れ替わりに登場する加納、志村、そして三森。

加納 （指を指し）向こうに見えるのが関門海峡だ。工事中の関門橋が見えるだろう【1973年11月開通】。狭い海峡なので、船舶の航行が管理されている。

三森 竜金丸がここを通過するのが、明日の午前9時から10時。

志村 戦略は？

加納
志村 錠さん、作戦は？
加納 考え中 . . .
志村 錠さん。大阪の時みたいに１００ｍまで奴らに近づきながら、取り逃がしちゃうのって、俺、嫌だからな。
三森 私も嫌です。
加納 俺だって . . . だから、考えているんだ。そうならないために . . .
志村 ほんと大丈夫かな、英修ちゃん . . .
三森 拉致されたのが、昨日の午後。今朝の時点ではまだ自力で歩けていた。
加納 だが、過度のストレスが、英修のバランスを崩しているだろう。もし、明日救うことが出来なかったら . . .

背後に現れる、ビクついた男。桜田である。加納らの方を見て、怪訝そうな顔をしている . . .
志村が男の視線を感じ、振り返る

志村 （振り返ったまま） . . . ん？
加納 暖、どうした？
志村 あっ、あいつ . . .

加納と三森も振り返る。怪訝そうだった桜田の表情がみるみるうちに変化し、まぶしいばかりの笑顔となる。そして、むちゃくちゃな走り方をして、加納のもとに駆けてくる。

志村 お前、桜田！？
三森 ？
志村 （三森に）俺たちがこの前「飛ばし」た奴。やくざに追われててさ . . .

加納の足下に泣き崩れる桜田。桜田、お前、鼻水垂れてるぞ。

桜田 加納しゃん . . . ぜったい、加納しゃんが、助けにきてくでると、おぼってました . . .
加納 お前、何故、まだここに？
桜田 フェディーのどうとしたり、きゅうにひだばづぐびが . . .
三森 （見るに見かねて、ハンカチを差し出す）これでチンしなさい。
桜田 （ハンカチを受け取り、ビービー鼻をかむ） . . . フェリー乗ろうとしたら、平松組がいたんです。私、逃げました。力の限り逃げました。街を出ようとしたんですが、駅にも、そこかしこに平松組らしいのがいて . . . 最後には、みんなが平松組に見えてきて . . . 私どうしていいかわからなくて . . .
志村 身から出たサビだろ . . .
桜田 でも、安心しました。助けに来てくれたんでしょう？
加納
志村 なに言ってるんだ。お前なんぞ、助けてる暇はねえんだ。俺たちの仕事にアフターケアなんて洒落たものは付いてないんだよ。
桜田 そんな . . .
加納 桜田。お前が見た平松組っていうのは？
桜田 相談役の剣崎が出張ってきてました。若いの連れて . . .
加納 元マル暴の剣崎か . . . やっかいなことになったな。見たのはフェリー乗り場か？

桜田 （頷く）
加納 分かった。助けてやろう。
桜田 （加納の手を握り、涙を流して、喜んでいる）
志村 錠さん！
加納 だが、これだけは守って欲しい。今から、その女性と近くのモーテルに入り、明日の昼までなにがあっても出てくるな。
三森 なにを！
加納 こいつは、女性にまるっきり興味がないんだ。その情報は平松組だって知ってる。まあ、偽装工作ってところだ。入ったら、お前だけすぐに出て、ここに戻ってこい。
三森 （納得いってないけど）はい。
加納 正午を回ったら、モーテルを出て、フェリー乗り場に向かえ、その頃には平松組はいなくなってる。いいな、行け。頼んだぞ、三森。ここで桜田を見つけれれば困るんだ。
三森 行きましょう。（桜田を立ち上がらせる）
桜田 あ、ありがとうございます・・・
加納 いいから、早く行け。鞆は三森が持て、腕を組んで歩くんだ・・・

桜田、逡巡するが、意を決して、腕を組む。しかし様になっていない。

志村 様になってねえな・・・
加納 桜田、お前の命がかかってるんだ。今だけは、本気で演技しろ。

桜田、三森の腕をぎゅっと引き寄せる。眉間にしわを寄せる三森。
と、ぎこちなく退場する。

志村 錠さん。いったいなにを？
加納 救出作戦のため、直接、警察や海上保安庁の協力も得られない。、当然自衛隊もだ・・・ しかし、この国にはそれには規模でとてもかなわないが、武装可能な大きな全国組織があるだろう？
志村 武装可能な全国組織って、まさか・・・
加納 そう、そのまさかさ。
志村 それって・・・ 大丈夫なの？
加納 交渉役、引き受けてもらえる？
志村 遠慮します・・・ 錠さん、あんたって人は・・・

情けない顔の志村。舞台が溶暗する。
と舞台の上に女と美英修が登場。サスが二人を浮かび上がらせる。

女 船が何処を航行しているのか？ ここは何処なのか？ そんなことはもうどうでもよくなっていた。頭に血が上ってこない。考えだってちっともまとまらない。氷の様に冷たくなっていく指先を誰かが優しく掴んだ。

美英修 ……ママ？

女 「違うよ。」と彼の声が響く。薄目を開けてその顔を見る。傷だらけの顔を・・・ 彼は私を優しく抱きしめてくれていた・・・

美英修 そうだ。ママは死んじゃったんだ・・・

女 彼が悲しそうな顔をする・・・ 「ママは死んでない・・・」そう言われるとそんな気もする。網膜に焼き付いたママが撃たれた時の映像。それがまるで映画の一場面のように繰り返され、淡

くなくなっていく・・・

美英修 私は死ぬの？

女 「死なない。」確信を持ったように彼が言う。もう、反抗する精神力も残っていない。私は彼の言葉を素直に受け止める・・・

美英修 そうだね。私、お家に帰れる？

女 彼がこっくりと頷く。

美英修 家にはママとそれから三人いるの。二木さんとノンちゃんに加納さん・・・ 二木さんはパパなの。本当のパパじゃないけど・・・ そして、ノンちゃんはお兄ちゃん。これもほんとのお兄ちゃんじゃないけど・・・ それで、加納さんは・・・ 加納さんはね。（ふっと笑って）私の恋人なの・・・ だから、加納さんは助けに来てくれるの・・・ 私が約束破ったことを許してくれるんだ・・・ お家に帰りたい。みんながいるお家に帰りたい・・・

女 「私も帰りたい。」彼はそう言った。優しく、私の手を握りながら、彼は幾度もその言葉を呟いた・・・ 私はそれを聞きながら、ゆっくりと意識を失っていった・・・ やがて、眠るように死んでしまうのだろう。そう思いながら・・・

美英修 でも、魂だけになって、身軽になれば、飛んで行ける。お家へ帰れるんだ・・・

女 私は、その時すでに、死ぬことに対し何の恐れも抱かなくなっていた・・・

女の最後の台詞に呼応して、舞台がフェードアウトしていく。

暗闇の中。肉を殴るような湿った音が響く。続いて加納のうめき声。ゆっくりと明転していく。舞台上に腹を蹴られ、転がる加納。二人のやくざ者。そして、仕立てのよいスーツを着込んだ男。平松組相談役・剣崎龍次である。

剣崎 （加納の前髪を掴み、顔を上げさせる）なあ、加納ちゃん。どうしてこんなところにいたのかな？

加納 「飛ばし」の下見です。ここのフェリー乗り場から「飛ばし」を・・・

剣崎 桜田のか？

加納 ち、違いますよ・・・

剣崎 本当か？

加納 ええ、今度はワケありの女を、釜山に逃がすって計画で、桜田とはこれっぽっちも、関わりのない・・・

剣崎 ・・・・・・（信じてない）

加納 信じてくださいよ、剣崎さん。ね、今回は、勘弁していただいて・・・

剣崎 （顔を殴る）勘弁できるか！ お互いやばいしのぎしてるわけだからさ。ルール守って仲良く行こうよ。共存共栄ってやつでさ・・・ 鷲みてえにあぶらげさらうのは、裏切りみたいなもんだろ。ん？ お前らの所為で、俺の舎弟がエンコ詰めなきやならなくなってるんだよ。その上、俺までこんなところまで出張ってこなくちゃならなくなった。

加納 たった1億で、組が総出？

剣崎 1億どころじゃねえよ。だから目の色変えてるんだろ。それをお前、1千万ぽっちで「飛ばし」引き受けたって言うじゃねえか。

加納 へっへっ、商売っ気がないもんで・・・

剣崎 （顔を殴って）軽口たたいじゃねえよ。で、桜田は？ こっちは下関、羽田を始め韓国への渡航経路はすべて押さえてんだ。奴はまだ国内にいるんだろ？ なっ？

加納 ・・・・・・

剣崎 強情だね。（腹をしたたか蹴る）もう一度聞く、桜田は何処にいる？ 教えてくれたら、もう虐めないからさ・・・（と殴ろうとする）

加納 分かった。分かりました。言います。言いますから・・・

剣崎 素直になったじゃん。

加納 奴はまだ国内にいます。でも、瀬戸内海だ・・・

剣崎 瀬戸内海？

加納 下関から飛ばそうとしていたんですが、剣崎さん達の対応が早かったんで、急遽、車で大阪まで桜田を戻しました。

剣崎 で？

加納 大阪港に韓国と貿易をしている小さな会社があるんですが、その貨物船に・・・

剣崎 その船は何時出た？

加納 昨日の朝、出航したはずですが・・・

剣崎 で？ 今、瀬戸内海を航行中って訳か・・・ 奴はすでに船の上。さてどうするかな・・・（とまた、殴ろうとする）

加納 待ってください。俺に名案があります。

剣崎 名案？

加納 俺の計算によれば、その貨物船は明日、関門海峡を通過することに。１００トンぐらいのタグボート用意できますか？ 平松組ならコネあるでしょう・・・

剣崎 それで、つつこむ気か？

加納 ああ、ここ関門海峡は航路の幅は５００ｍもない。でかい貨物船でも通ろうものなら、確実に渋滞を起こす。桜田押さえるチャンスはこれを置いて他にない・・・

剣崎 加納ちゃん。お前、面白いこと考えるな。・・・で、その船の名前は？

加納 韓国船籍で、名前は竜金丸。船員数は２０人程度。ただ・・・

剣崎 ただ？

加納 同じ穴の貉で、奴らもやばいもん運んでるんです。たぶん武器も持ってる。

剣崎 チャカが必要ってことだな・・・ 分かった。で、当然、お前も来るんだろう？

加納 ・・・・・・・・

剣崎 どうなんだよ！（と殴ろうとする）

加納 はい、喜んで・・・

剣崎 （にやりと笑って立ち上がり、回りの若い衆に声をかける）おい、お前ら。明日は「海賊ごっこ」だぜ。

ヒューズがはじけ飛びでもしたように、舞台が暗転する。

十七. 奪還

波の音・・・

映像に以下のテロップがタイピングされる。

「1973 年 8 月 9 日 08:49

福岡県北九州市。門司港。」

明転すると舞台上に志村、舞台奥に二木がいる。

志村 ・・・で、ママの具合は？

二木 順調に快復に向かっている。心配するな。今朝なんか、病院飯喰った後でバナナ 4 本食べたぞ。傷口閉じれば退院だ。

志村 そうか、そりゃよかった。で、錠さんからの伝言は伝えてくれたか？

二木 伝えたさ。「英修は必ず救い出す」って・・・

志村 ママ、なんて言ってた？

二木 一言、「錠さんを信じてる」って。

志村 そうか。

二木 で、錠さんは？

志村 昨日の夜は帰ってこなかった・・・

二木 本当に大丈夫なのか？

志村 錠さんに限って・・・俺だって錠さん信じてるから。

二木 三森は？

志村 北九州水上警察署で打ち合わせ中。英修ちゃんとDJの奪還について嘘八百並べ立ててる。

二木 どうにかなりそうか？

志村 あいつの後ろには栢木っていうおばちゃんが付いてるんだ。大阪府警の警備部長。その上「切れもん」ときてる。結構、人脈も広いみたいで・・・

二木 それでどんな戦略なんだ？

志村 とある大阪で起こった事件に絡み、平松組に不利な証言をした韓国籍の証人を人身保護の目的で、韓国籍の貨物船を使い極秘に輸送中。平松組に情報が漏れてしまった・・・奴らは証人を拉致しようと、ここ関門海峡で強硬手段に出る・・・そんな展開だ。

二木 そして、その証人とはDJと美英修。二時間ドラマか？

志村 そうだな。だが、そんな荒唐無稽な話も、大阪府警の警備部長の口から出ると真実みを帯びて来ちゃうから不思議なもんだ・・・

二木 警察の捜査状況はどうなっている？

志村 捜査本部はグランドパレスの検証に焦点を絞っていて、広域捜査は実際には中止されたとのこと。検証を行っている捜一は、すでにKCIA関与の動かぬ証拠を掴んでいるらしい。

二木 動かぬ証拠？ 指紋とか？

志村 そう、指紋とか、だ。

二木 道理で・・・今、ちょっと自衛隊が騒がしくなっていてね。

志村 なに、また別班情報？

二木 そうだ。どうやら、春日の西部航空方面隊司令部にスクランブルの要請が出たらしい。

志村 政府が動いたか・・・

二木 それも対象は船舶。まあ、威嚇のためだろうが、いいデモンストレーションにはなるだろう。

志村 日本の自衛隊、そしてその後ろにはアメリカ・・・それでも奴らはDJを殺すのかな・・・

二木 （時計を見て）もうすぐ9時だ。竜金丸は予定通り進んでいる。後30分で暖の視界に入ってくるだろう。

志村 いよいよか。

二木 そうだ。暖。お前も無事でな。

志村 大丈夫。（おなかを叩いて）錠さんがチャカ預けていったから・・・

二木 チャカって？

志村 取引の時、北の連中が使ってたブローニングだよ。錠さん、どさくさに紛れて・・・

二木 いいか、暖。拳銃持ってるから「いざというとき安全」なんてことはないんだぜ。

志村 分かってる。さあ、俺も行かなきゃ。俺の「役どころ」は大阪府警の刑事らしいから・・・

二木 気を付けろ。いいな。

頷く志村。通信を終了し、両者退場する。

と、二人のやくざに支えられ登場する加納。足がもつれて転ぶ。顔は無惨に腫れ上がっている。続いて現れる、剣崎。

剣崎 しっかりしてくれなきゃ、加納ちゃん。あんた切り込み隊長なんだから・・・ ほら、これが頼まれてたタグボートだ。100トン、2400馬力。サビはすごいが、エンジンは快調だと。（回りの舎弟が拳銃を振り回しているのを見て）こら、チャカはしまっとけ！（加納に向き直り）いいか、貨物船に横付けしたら、まずお前が最初に飛び移れ。すぐに俺たちが続く。

加納 俺のためのチャカはないのか？

剣崎 あほか。お前にオモチャ渡したら、いけない使い方しちゃうでしょう。まっ、その身ひとつでお行きなさい・・・（舎弟に）おい、上で貨物船の監視だ。お前は操舵手呼んでこい。（加納に）ガセかましてんじゃねえよな。本当に来るんだな？ もし、10時回って来なかったときには、ケツの毛まで抜いた後で、生コンの風呂に浸かってもらうから。さっ、船に乗ってもらおうか。

剣崎、加納をどつきつつ、ともに退場。と、坪井をサスが貫く。

坪井 ・・・・船が急速に減速していくのが分かる。関門海峡が近づいてきたのだ。そこを抜ければ、数時間で朝鮮海峡。もうこの国に戻ってくることはないだろう。だが、何の後悔も感じない。どうせ魂の抜けた軍人と心を失った愚民どもの島国だ。俺がいる意味も価値もない・・・ 小さな丸い船窓から、門司港が見える。それにしても、せせこましい港だ。色とりどりのヨットが掃き集められたゴミのように固まっていて、まさに亡国の風景そのものだ・・・ 俺は唾棄すべきその光景から、視線をそらし、船室内を見渡す。ここは依然として・・・（ふと、坪井の言葉が途切れる）なんだ？ なんか変だ？ 俺は違和感を感じ、視線を小さな丸い船窓に戻す。妙な違和感の原因はその先にあった。一艘のタグボートがこちらに向かって近づいてくる。舳先が大きく上下し、激しく白波を砕いている。緊急事態か。先を進む大型貨物船でなにか・・・ いや、違う。タグボートは一直線にこの船を目指している。全速力で向かってくる。何故だ？ 何故・・・

舞台後方に現れる加納と剣崎、そしてやくざもの達。強い風が彼らの衣服をはためかせている・・・

坪井 舳先に人が立っているのが見える。数人の男達。警察か？ 違う。そうではない。一体・・・ 先頭の男。あの男。どこかで・・・ 思い出すんだ・・・ あの男、二木とともにいた男だ！ まさか、DJを奪還しよう？ 朴（パク）、鄭（ユ）！ 襲撃だ！ タグボートがぶつかってくる！！

タグボートが激突する轟音。舞台袖に瞬時に消える坪井。後方の男達は身を屈める。

と、加納がバネのように跳ね上がり、一段下の台上に着地、すっと立ち上がる。貨物船の甲板に飛び移ったのだ。仁王立ちのまま叫ぶ、加納。

加納 ウンジキジマ！ イルボン・ツカンペ！

加納に続き、剣崎が台上に降りてくる。次々に飛び移ってくる銃を構えたやくざもの。

剣崎 なんだあ、急に撃たれたりしないじゃないか。拍子抜けだなこりゃ・・・ ときに加納ちゃん。お前さっき、なんて叫んだんだ？

加納 動くな。日本のやくざだ。

剣崎 ベタ過ぎだ。文学的センスないねえ、お前。で、桜田どこにいるんだ？

加納 アッパーデッキの船室の中。

剣崎 （やくざものに指示を出す）お前らは右舷から、俺とお前は左舷から行く。いいか、むやみに撃つんじゃねえぞ。それに、間違っても桜田を殺すなよ。いびる楽しみがなくなる。よし、行け！

舞台両翼に散開しやくざ達が舞台袖に勢いよく駆け込む。

加納もそれに続くと思せかけて、袖際で立ち止まる。と、きびすを返し、台上へ移動。

加納 船首甲板下の貨物室・・・ DJと英修はそこに・・・（と、甲板上を捜す。舞台袖より銃声がし、思わず顔を上げる）おいおい、やりすぎるなよ。それにぜったい死ぬなよ。（と、貨物室の天板を発見する）これか！

加納、天板を持ち上げようとするが、重すぎるようだ。ぎいっと耳障りな音を立てるが、ぱたんっと大きな音を立て閉じてしまう。加納は渾身の力を込める。天板が全身の毛が逆立つような軋み音を上げながら、ゆっくりと開いていく。加納の口から漏れるうめき声。と、だだーんっという轟音とともに天板が逆に倒れる。あおりを喰って倒れる加納。再び遠くで銃声。「早く来い。三森。このままだと、死人が出るぞ！」と、ひとりごちる加納。だらりとした右腕を左手で強く握る。どうやら腕の筋が伸びてしまったらしい。台上から下をのぞき込み、叫ぶ！「英修！」しかし誰も答えない。意を決し中に飛び込む。体を屈め着地の衝撃に耐えたその刹那、加納の背後に人影が現れる。胸に英修を抱いている。光の関係でその人物の表情は見て取れない・・・

男 「英修はここにいる。呼吸は浅いが、まだ息はある。」

加納 DJか？ あなたを保護しに来た。

男 「DJ・・・ そう呼ぶものもある。さあ、この子を・・・ 助けに来たんだろう？」

加納、その男から英修を受け取り、舞台前面まで来て腰を下ろす。

加納 英修！（呼びかけるが答えがない）体温がかなり下がっている・・・

加納ポケットからペン型の小さな注射器を取り出す。

加納 英修。グルカゴンだ。今から打つぞ・・・

英修の上着をめくり上げる。お腹、その白い肌が（勢い余って下乳も）露わになる。加納がキャップを外し、お腹にグルカゴンを突き立てる。突然の刺激に身を硬直させる英修。空になった注

射筒を放り出し、加納は英修を抱きしめる・・・ 英修が、うっすらと目を開ける・・・

美英修 ・・・加納さん？

加納 英修・・・

美英修 来ないと思ってた・・・ だって、私、約束破ったから・・・ もうトランクには入らないって・・・
その約束を、私破った。だから・・・

加納 お互い様だ。俺も破ったから・・・ トランクのこと、ママに言った。

美英修 加納さん・・・

と、耳をつんざくサイレンの音。唸るエンジン音。ラウドスピーカーから、志村の声。

「北九州水上警察だ！ 船内の平松組組員に告ぐ。武器を捨て甲板上に出てきなさい！」

加納 暖の声だ。やっと来たか。

舞台袖から走り出る平松組の剣崎とやくざもの。

平松組 1 やべえ、警察だ！

剣崎 奴ら隠れてやがったのか？

平松組 2 剣崎さん・・・

剣崎 情けない声を出すんじゃねえ！ で、桜田は見つかったのか？

平松組 1 何処にも・・・

剣崎 まさか、はめられたんじゃ・・・

ラウドスピーカーからの声が、また響く。

「平松組幹部、剣崎！ それに三下ども！ 武器捨てて出てこいって言ってんだよ。こら！」

美英修 ・・・ノンちゃんの声？

加納 そうだ。暖が、助けに来たんだ。

剣崎 畜生、完璧にはめられた・・・ おめえら、チャカ、海に捨てるんだ。

平松組 2 剣崎さん、出てくんですか？

剣崎 マッポに楯突いてどうしようって言うんだよ。出たところで長六四は喰らわねえ。チャカさえで
なきゃな・・・ 行くぞ、畜生！！

舞台袖に消える平松組。

加納 D J、これで助かるぞ。さあ、出る準備を・・・

男 「私は行かない・・・」

加納 なんだって？

男 「ここを出て何処へ行く？ 日本？ アメリカ？ 私は韓国の政治家。だから、韓国にいなけれ
ば・・・」

加納 殺されるだけだぞ！ 仮に殺されなくても、投獄されるか、監禁される。どちらにせよ政治活動
なんか行えるかよ！

男 「それは日本にいてもアメリカにいても同じ。政治的に抹殺されているのと同じ。」

加納 D J・・・

男 「韓国に帰りたい。韓国には家族がいる・・・」

加納 家族・・・
男 「そう、家族。それに、韓国が私の故郷・・・」

と、どさりと一人の男が、貨物室の中に飛び降りてくる。

加納 遅かったな、暖。英修を・・・

貨物室に降り立った男。それは志村ではなかった。
銃を構えた坪井だ。

坪井 ・・・・志村じゃねえよ。(フツと笑って) やくざ従えて、DJの奪還か？ 狂ってるのか、お前？
加納 ・・・・

坪井 グランドパレスでの猿芝居。絵を描いたのはお前だな。あれさえなけりゃ、とっくにこの容共の
輩は抹殺されてたんだ。手間かけさせやがって・・・コケにされたままでは好きじゃない
んだ。分かるよな・・・ 二木の分まで、弾喰らえ！

坪井が加納に向かい、引き金を引き絞ろうとしたその刹那。甲板上から三森の声が響き渡る。三
森が甲板に立っている。照準を坪井に合わせて・・・

三森 坪井！ 武器を捨てなさい！
坪井 なんだ、お前？ 武器を捨てろ？ 笑わせるな！

坪井が銃口を三森に向ける。緊張する三森！と、貨物室に飛び込んでくる銃を構えた志村。

志村 そこまでだ。坪井、銃を捨てろ。

坪井 志村・・・

志村 坪井。もう止めるんだ。俺と一緒にこの船を下りるんだ。

坪井 出来ないね。俺はもう別班でも日本人でもないからな・・・

志村 どういうことだ？

坪井 俺は今、青瓦台の指示のもと動いている。いや、海外情報局KCIA8局のもとでだ・・・

志村 お前、一体？

坪井 これからはKCIAの局員として働くことになる。俺の頭の中には日本の国防に関する機密情報
がたくさん詰まってる。きっと役に立つことだろう・・・

志村 国を売る気か？

坪井 国を売った訳じゃない、自分を売り込んだまでだ。

志村 狂ってるのか？

坪井 お前達ほどではない・・・

志村 一体なにが、お前をこれほどまでに狂わせたんだ・・・

坪井 お前に同情される覚えはない！ DJを置いて、早く立ち去れ。その娘は返してやる・・・

加納 暖、撤退だ。

志村 DJは？

加納 彼はこの船を下りない。

志村 ？

男 「そう、私はこの船を下りない・・・」

坪井 よほどの馬鹿だな・・・ 青瓦台の命令が下れば、お前は公海上で殺され捨てられる。

加納 馬鹿なんかじゃない。それは強い意志だ。韓国に帰りたいんだ。たとえ殺されようとも・・・ お前には分かるまい。

坪井

加納に抱かれていた美英修がうわごとのように・・・

美英修 おじさん、そこにいる？ 加納さん。おじさんがね、ずっと暖めてくれてたの・・・ 私の体を・・・
加納 英修？ （英修は答えを返さない）・・・DJ、ありがとう。
男 「・・・・・・」

ヘリコプターのローターの轟音が近づいてくる。頭上を見上げる志村。

志村 陸自のHU-1だ。とうとうスクランブルが開始されたな・・・ 政府がとうとう自衛隊を動かしたんだよ。「もしDJを殺めたら、ただじゃおかねえ」って意思表示だ。日本、そしてその後ろにはアメリカがいる。韓国政府はどうでるかな・・・ 坪井、お前達は韓国領域の境界ぎりぎりまで自衛隊に監視される。

加納 行こう、暖。

と、銃声。三森の銃が火を噴き、坪井の足下で銃弾がはねたのだ。驚く坪井。

三森 坪井、私は武器を捨てろと言った。今のは警告だ。早く捨てろ！

加納 三森。

三森 あんたは警官一人殺してるんだ。西谷一郎・・・ 今すぐ武器を捨てろ！さもなくば撃ち殺す！

加納 三森！

三森 納得できないだろう。どうしてこのまま退散なんだよ！ こいつは西谷さんを殺してるんだ。こいつは警官殺しなんだ！

加納 止めろ、三森！ ここで坪井を逮捕することは出来ないんだ。微妙な外交問題を含んでいるんだ。栢木も言っていただろう。「警察はこの件にはノータッチ」だと。だが、上のレベルで、遙かに上のレベルで、奴は裁かれるはずだ・・・

三森 そんなこと信じられる？ 今ここであたしが裁く！

加納 ここで、西谷の仇をとろうなんて考えるな。感情のまま引き金を引けば、お前はもう警察官じゃない！ ただの犯罪者だ。

説得する加納。しかし、三森の腕から力が抜けることはない。立ちつくす登場人物達。ヘリコプターのローター音が高鳴り、劇場が闇に包まれていく。ローター音にかぶり、暗闇にサイレンの音、そして警察無線（三森から栢木への通信）が流れている・・・

「・・・水上警察との合同捜査により、韓国船籍の貨物船に海賊行為を行った平松組幹部剣崎龍次を含む暴力団員5名を逮捕しました。暴力団員らは使用した拳銃を逮捕直前に海中に投棄したと思われますが、急速な潮の流れに因り、その捜索はほぼ不可能であると考えています。それから、暴力団員らに拉致されようとしていた証人は無事保護され、北九州市の病院で手当を受けています・・・」

十八. 朝鮮海峡

舞台の上には、大きなバックを胸に抱え、すがすがしい表情の桜田。

桜田 ・・・・びくびくだったけど、無事こうしてフェリーに乗ってる。出航しちゃえば、もう大丈夫だよね・・・よかった。加納さんに下関で会えて。私って、やっぱりめっちゃめっちゃラッキーってこと何ですね。でも、加納さんどうやって、平松組を・・・まっ、いいか。結果オーライってことで・・・

ジェット戦闘機の飛来音。

桜田 わっ、なんだ？　ジェット戦闘機か？　自衛隊の？　どうしたんだろう、こんな低空で・・・

と、もう一機、頭上を通過する。首をすくめる桜田。

桜田 もう一機。何かあったのかな・・・まさか韓国で戦争再燃？　そんなことないよね・・・とにかく釜山に着いたら・・・あれ？　なんて名前だったっけ？　潜伏先の手配してくれる人・・・ソン・・・ソンエ・・・ソ・・・ははは、忘れちゃった！　ドンマイ、ドンマイ、釜山に着けばどうにかなるって、なんせ、私はラッキーだから・・・

満面の笑みで、舞台袖に消える・・・

と、舞台上に、ほおづえをつき座り込んでいる坪井。

坪井 日本政府からだけでなくC I A、そしてアメリカ政府からも、「D Jを殺害するな」という強い警告が電信され続けている。きっとこれらの警告は青瓦台や南山のK C I Aにも届けられているに違いない。その上、自衛隊機のスクランブル発進。青瓦台はどうでるのか・・・警告を無視するのか、それとも・・・もうすぐ日本の領海を抜け、船は公海上に出る。そこで命令が下るはずだ。俺は祈るばかりだ。何者にも屈服しないことを・・・

と、舞台袖に現れる、志村と二木。

志村 ・・・・英修ちゃんは無事。北九州の病院に錠さんと一緒にいるが、2、3日で退院できそうだ。

二木 そうか・・・

志村 だが、D Jは・・・

二木 「私は韓国の政治家だ。だから、韓国にいないといけない・・・」そう言ったんだろ、奴は。

志村 肝座ってるな、ホント・・・

二木 でも、きっと大丈夫さ。命だけは・・・日本政府は韓国政府だけではなく、竜金丸にも強い警告を送った。それに自衛隊機のスクランブルも・・・

志村 ああ、俺たちが竜金丸を離れる時点で、すでに到着していたよ。威嚇のための陸自のヘリが・・・ヘリ？

志村 どうかしたか？

二木 俺が掴んだ情報によると、スクランブル発進されたのは空自の2機の戦闘機だぞ。それに、築城（ついき）基地を飛び立ったのはそんな前のことじゃない・・・

志村 ってことは、俺たちが見た陸自のヘリは？

二木 ・・・・

志村と二木、退場する。舞台の上は、再び坪井だけとなる。

坪井 K C I Aから伝えられた青瓦台からの命令は、釜山へ帰港し、待機している救急車にD Jを乗せろというものだった。救急車だぞ！ 奴は、あの容共の輩は、命を救われたのだ。青瓦台は屈服したのだ。アメリカとあの亡国の国、日本に・・・ この船のまわりで2機のジェット戦闘機がこれ見よがしに旋回飛行を繰り返している。もう、公海上だぞ。日本の領海、12 海里はとうに過ぎている。それに、あのヘリだ。関門海峡通過時点から、付きまとい続け、まるでうるさい蠅さながらに、人の頭上を飛び回っている・・・

坪井が頭上を睨み立ち上がる。ヘリのローター音が大きくなる。

坪井 うるさい！ ここはもう、日本の領海ではない！ 帰れ！（銃を引き抜き、ヘリコプターに向け発砲する）魂なき自衛隊員どもが！ 畜生！！

と、坪井の胸にポチッと小さな赤い点が現れる。

見ると後方の台上に戦闘服を着た狙撃手が狙撃中を構えている。赤い輝点は、その中から照射されているレーザーだ。

【世界最初のレーザー・エイミング・モジュールの搭載は1974年（オーストリア）のことである。そのレーザー・モジュールは今のものと比べ遙かに巨大なものであり、当時1台1000ドルという高額過ぎる商品でもあった（ここまではホント）。1973年1月、防衛庁は予算消化のためと、単なる興味本位から、この時点では全く使い物にならないと思われるレーザー・エイミング・モジュールのベータ版を開発元のスイス、エリコン・コントラヴェス社に発注している（というのは、ウソ）。だが、各国の狙撃部隊がこの先進のシステムに早いうちから注目していたはずだし、開発元が実用化に向けての商品開発の助けにと、それら部隊にベータ版を無料貸与していた可能性は低くないのではないだろうか（なんて、自分を納得させたりして・・・）】

坪井 （赤い輝点を見て）なんだこれは？

と、視線をヘリ開口部にいる狙撃手に向ける。その銃口が殺気をはらんでいる。目を見開く坪井。その瞬間、銃声がある。ぐらりと体勢を崩し、台上から舞台に身を躍らせる坪井。パチャンと水のはねる音。坪井は撃たれ海に落ちたのだ。後方の狙撃手は銃口を上げ退場する。ヘリが遠ざかっていく。それに呼応し、ヘリのローター音が小さくなっていく・・・ 波の音。小さく碎ける波頭。舞台上に仰向けになったままの坪井。波間に漂ったまま、ぴくりとも動かない・・・ 波の音。小さく碎ける波頭。海のざわめき・・・ 舞台はゆっくりと暗転する。

十九. こうして、暑い夏がおわった

舞台の上に女（現在の美英修）と美英修。傍らに加納。

女 ……私は病院のベッドの上で目を覚ました。ふと横を見ると加納さんがいた。目覚めるのをずっと待っていてくれたのだ。加納の口から母が無事であることを聞き、私は体中がぎしぎしさび付いたかのように痛むのを忘れ、心の底から喜んだ……

加納 ママは強運だ。弾が急所をはずれていたんだ。傷口がふさがればすぐにでも退院できる。

美英修 よかった。私、あの時はママが死んじやったと思った。本当に思ったんだよ。

加納 分かるよ。目の前で撃たれたのを見たら、誰だってそう思う。

美英修 （と、加納の顔にたくさんの絆創膏が貼られているのに気付き）ねえ、加納さん。顔どうしたの？ 奴らに殴られた？

加納 協力をお願いした怖いお兄さん達にね。英修がもっと元気になったら、ちゃんと教える。だから、今は休むんだ。2、3日安静にしていれば、退院できるって先生も言っていた。いいね。

女 点滴注射のおかげか、次の日にはもう元気になって、逆にベッドに寝ているのが退屈で仕方なくなっていた…… 加納さんがいろいろ話をしてくれた。今回の大活劇。そして、「飛ばし屋」家業の関係する裏世界。身振り手振りを交えて、ずっと喋っている……

加納 で、今回一番不安だったのは、英修が変な感染症起こしちゃうんじゃないかってことだった。

美英修 感染症？

加納 そう。やくざとの駆け引きがあったろう？ 当然武器と名の付くものは持っていけないし、見つかったらとられちゃう。で、グルカゴン注射器だ。見ようによっては危険なものに見える。ポケットに忍ばすわけにも行かず…… 何処に隠したと思う？

美英修 分からない。

加納 正解は…… ケツの穴。

美英修 げっ。お前、それを私に注射したのかよ！

加納 だから、感染症を心配したって訳……

女 「今度の仕事が終わったら、全部話す。」その約束を果たそうと、加納さんは喋りまくる。看護婦さんが聞き耳を立て、訝しむのも何処吹く風って具合に…… 楽しかった。楽しくて仕方なかった。でも、私は気付いていた。加納さんがこうして秘密をばらしているのは、秘密が秘密である必要がなくなったからなんだって……つまり、彼は飛ばし屋を辞めると決めたんだって…… ママを含めた飛ばし屋チームは解散し、そして…… 私は、その悲しい結末を考えないようにした。頭の中から閉め出すように努力した……

加納 英修。今日は退院だな。退屈なベッドにもおさらば。それにママにも会える。それに嬉しい知らせがもう一つ。昨日の夜、おじさんがソウルの自宅付近で発見されたそうだ。

美英修 生きてたの？

加納 命に別状はないとのことだ。

美英修 よかった。おじさん、生きてたんだ。ホントによかった。

加納 ああ。でも、これからが大変だろう。あの国は今、軍事政権でそれも戒厳令下にある……

女 言葉の意味はよく分からなかったが、DJがあまり快適とは言えない状況に置かれていることだけは分かった……

加納 さっ、行こう英修。看護婦さんにお礼を言ってね……

女 退院なんかしなくていい。ベッドに寝ていることが退屈だなんて、ぜったいいわないから。一生ここにいたい。そうすれば、加納さんも…… 理不尽な祈りは天に届くことはない。私が博多空港から母のもとへ届けられたただけだ……

立ち上がる美英修。加納のみが退場する。
入れ替わりに舞台袖に現れる栢木と三森。

三森 栢木警備部長。
栢木 栢木「さん」でいいって言ってるだろう。おつかれさん。君が無事帰ってこれたって事で、良しとするか。
三森 あ、お礼を一言言いたいと思ひまして・・・ 今回は本当にありがとうございました。(深々と礼をする)
栢木 それだけ？ 私はまた、君が辞表を叩き付けるんじゃないかと思ってたのに。私を含めた警察官僚のやな面や、どうしようもない警察組織の体質とか、見なくてもいいものたくさん見ちゃっただろ・・・
三森 はい。
栢木 おや、素直だね。
三森 ですが、いい面も見ることができました。そして、旧態依然とした警察組織も変わっていく可能性があることを知りました。
栢木 ？
三森 栢木さんが警視總監になれば・・・
栢木 なれると思う？
三森 あきらめなければ・・・
栢木 (笑って) だったら、君もあきらめるな。ずっと警察官でいろ。いろいろあったとしてもだ・・・
三森 はい。
栢木 (急に真顔になり) なあ、今日の午後の西谷の葬式、一緒に行こう。
三森 喜んで、お供します。

栢木と三森が退場する。

女 ……母は私が着くと、その翌日に退院した。傷口がちゃんとくっついているのかどうか不安であつたが、病院で安穩としていることに、より大きな不安があつたのだろう。きっと敵を作りすぎたのだ。零細企業の「飛ばし屋」には何の保証も相互扶助もないのだ。母はすでに自らを「飛ばす」事を考えていた・・・

美紅牀が台上に現れる。腹部を押さえている。

美英修 北海道？
美紅牀 そう、明日の午後。
女 女満別、網走湖のほとり。どんなところなのか想像も付かなかった・・・
美紅牀 二木さんも一緒。
美英修 ノンちゃんは？
美紅牀 暖は来ないよ。
美英修 ……
女 聞こうとして、止めた。聞かなくなつて分かつていた。加納さんも来ないのだ。彼らもまたそれぞれに自分を「飛ばす」算段をしているはずだ。

空港のアナウンスが流れるなか、美紅牀の隣に二木がやってくる。

「日本航空札幌行きはもうすぐ搭乗を終了いたします。ご搭乗手続きがお済みの方は5番搭乗口までお急ぎ下さい・・・」

美紅牀 英修。もうすぐ、搭乗口が閉まるよ。早く行きましょう。ママはまだお腹の傷が疼いて走れないし、二木さんだって・・・

美英修 だから、あと1分だけ・・・

二木 きっと錠さんも暖も忙しいんだ。見送りにきたくても・・・

美英修 ぜったい来るもん。お願い。だから1分だけ。

女 来ないのは分かっていた・・・

二木 向こうに落ち着いたら、錠さんと暖を呼んで・・・

美英修 うん。でも、1分だけ。

女 二度と会えないことも分かっていた・・・

美紅牀 （時計で時間を確かめて）英修。私たちは先に行くよ。本当に後1分だけだからね。いいね。

二木 5番搭乗口だから、左の突き当たりの・・・ 5番だよ。5番

二木、美紅牀を伴って退場する。

ひとり前方を見つめる、美英修。離れたところに女。

ツクツクボウシの鳴き声が響き始める。舞台は炎天下の路上。

加納、志村、そして高野が現れる。みなどぎつい色のアイスクャンディをほおばっている。

高野 韓国政府は韓国国内の問題であるとしてこちらの捜査依頼をいっさい拒否しています。特捜はグランド・パレスに残された金東雲一等書記官の指紋を証拠に徹底抗戦する構えです。当然、その書記官がKCIAに属していることは確認されていますし・・・

加納 今後の展開は？ お前の予想を聞かせてくれ。

高野 韓国政府はぜったいに折れることは出来ないし、日本側としても関係悪化を恐れているでしょう。これ以上の究明は避けて、政治決着という形を取るのだと思います。

志村 そんなもんか？

加納 そんなもんだ。まあ、特捜は断腸の思いって言うところだろうが、これ以上突っ込まれたら、お前ら公安も策を講じなきゃ行けなくなるだろう？

志村 ヘタうったら官房副長官までたどり着いちゃうし・・・

高野 私の首が飛ぶぐらいじゃすまなくなります。

加納 それにしても自衛隊機のスクランブルには驚いたな。よく政府を説き伏せる事が出来たな。

高野 あれはアメリカの忠告があったから・・・

加納 それだけじゃ、動かないだろ？ 切迫した状況を知っているお前が、必死で笛吹いたから、政府が踊った・・・ そんなかんじだろ？

志村 あんたもあんたなりに、きちんと後方支援してた訳ね。

高野 そんなことは・・・

加納 結局、DJの命を救ったのはお前の力かも知れないな。

志村 DJをはめようとしていたのに、最後にはヒーローってやつか？

加納 ヒロインだろ？（高野の顔を見て）なあ、高野。

高野 なんだ？

加納 依頼退職なんかで辞めるなよ・・・（アイスクャンディーを食べ終え）暖、そろそろ行くか？

志村 そうするか？ こんな炎天下で立ち話も疲れるしな・・・

加納 で、暖はどこへ行く？

志村 俺か・・・ 俺は、その先の分かれ道を右に・・・

加納　じゃあ、俺は左だ。高野は？
高野　私は・・・来た道を引き返します。
加納　そうか。じゃあな、高野。

加納と志村は正面に向かい歩き出す。高野はきびすを返し、舞台後方へ歩み出す。高野がふと足を止め、振り返る。

高野　言い忘れてました。あなた方チームの調査資料は破棄しましたよ。
加納　（振り返りもせず）信じてたよ。
高野　加納さんの資料は若干残っていますけど・・・
加納　じゃあな。

高野、きびすを返し舞台後方に退場。
加納と志村が分かれ道にさしかかる。別れの挨拶をし、志村は右に加納は左に歩を進める・・・と、志村が呼び止める。

志村　錠さん。また組まないか？
加納　（振り返りもせず）仲間の命、形に取られて働くのはもうたくさんだ。ひとりでだらだらやらせてもらうよ・・・
志村　だよな・・・

加納、志村それぞれ舞台の両翼に消える。
蝉はまだ鳴き続けている・・・

女　来ないことは分かっていた。待っていても、どうにもならないことは分かっていた。
美英修　あと、１５秒だけ・・・
女　飛ぶためには、自らを変えなければならない。新しい自分になることに恐れはない。ただ、捨て去らねばならないものの大きさに愕然としている自分がいる・・・
美英修　あと、１０秒だけ・・・
女　私は美英修という名を捨て、美吉英子になる。
美英修　あと、５秒だけ・・・
女　英修と言う名前は大好きだった。でも、それを捨て去るのが悲しいんじゃない。本当に悲しいのは・・・

言葉が切れるのと同時に、蝉の鳴き声が不意に止む。響き渡る残響音。

女　こうして、私の暑い夏はおわった・・・

きびすを返し、掛け去る美英修。
サスが女だけをおぼろげに照らしている。

二十．新宿、雑踏、新しい客

女をサスが照らしている。

ここは新宿の夜の雑踏。通りすぎる車、クラクション、行き交う人々、酔っぱらいの怒号、そして嬌声・・・

女 あれから３０年以上たった。私は相も変わらずインシュリン注射を続けている。そんな私とは対照的に、ＤＪの現在に至るまでの生涯は激動と呼ぶに相応しいものだった。あの時、ＤＪは命こそ奪われることはなかったが、すぐに軟禁状態におかれ、自由は奪われたままとなった。７年後、光州で起こった学生運動を扇動したとして拘留、死刑判決を受ける。やがて、無期懲役に減刑され、執行停止に。その後３年間に渡る亡命生活。そして、政界復帰。そんな紆余曲折を経て９７年に韓国大統領となる。それも、自分の拉致に関係したといわれる元ＫＣＩＡの金鐘泌（キム・ジョンピル）と手を結んだ選挙戦の結果・・・死刑囚であり、大統領であった人。敵と味方が入り乱れて、それが相互に入れ替わり、まるでメリーゴーランドのように彼のまわりを回っていた。まさに政治という名の狂った自己免疫の繰り返し。ＤＪは其中で振り回されていたのか、それとも振り回していたのか・・・（ため息混じりに笑って）こんな事、私が口を挟める類のものではないのだろうが・・・ただ、私が言えるのは、貨物室で抱きしめてくれた彼の手はとても温かかったということだ。そして、その温かさはあの時私を助け出してくれた加納さんのものと同じだった・・・加納さんも、また、警察機構という硬直化した免役システムの中で、我を見失い、そこから飛び出すことにより自分自身を回復した人だ。自分を完璧にコントロールする方法を自分自身で見付けたのだ。彼らのように強く生きたい。それが私の思い。そして、彼らを強くさせたものが何かを知りたい。それが私の願い・・・（自らの手を握りしめ）彼らの手の温もり、それは単なる温度の問題ではなく、強い心の者だけが持つ「温もり」だ。私は、今、温かい手をしているのだろうか？ 私の手はその温もりを持っているのだろうか？

胸元で携帯電話が鳴る。耳に当てる女。

と、舞台上に現れる男。金城である。

女 もしもし？

金城 美吉か？ 計画変更だ！

サスペンフルな音楽が流れ始める・・・

女 金城、なにがあった？

金城 ターゲットが入れ込んでた女。あれ、平松組の仕込みだ。渡航経路が奴らに筒抜けだった。

女 道理で・・・臭いと思ってたよ。

金城 悪いニュースがもうひとつある。ターゲットと一緒に、うちのケンまで持ってかれた。

女 ケンちゃんも？

金城 心配するな。あいつはちょっとやさそとでくたばるようなヤワじゃねえよ。だが、どうにかしねえとなあ・・・しかし、毎度思うが、ほんとに難儀な商売だな。「飛ばし屋」ってやつは・・・

女 そうさ、誰にでも出来るって商売じゃない。

金城 とにかく、俺の車に飛び乗れ。

女 飛び乗って、金城お前どこに・・・

金城 お前の後ろ！ さあ、こっちだ

と、金城が手を差し出す。反射的につかむ女。
走り出そうとするが・・・ 金城が動きを止め女の顔を見る

女 どうした金城？
金城 いつも思うけど、あんたの手、温かいな。
女 私の手・・・
金城 あんたの手を握っていると、何故か安心できる。ちょっとだけ強くなった気がする。そんな不思議な「温もり」だ。この「温もり」を求めて、みんな集まってきた・・・
女 金城？ お前・・・
金城 なんてな・・・ （と、手を放し、通信装置を女の耳につけてやる）とにかく、今夜はタフな夜になりそうだ。（スロートマイクに）「磯村。ケンが連れ込まれた組事務所の周辺を、街頭カメラをハックし、スキャン。」

舞台袖から、パームトップコンピュータを手にとって現れるハッカー磯村。

磯村 街頭カメラ、ハック完了。事務所周辺に組員らしき者の姿なし。
女 （通信機に）「牛山、そっちは？」

舞台袖から、こっそりと現れるクラッシャー牛山と突撃隊3名。

牛山 事務所の裏口にいる。監視の気配無し。いつでも侵入可能。
女 今から金城と組事務所正面に向かう。牛山は合図があるまでそこで待機。磯村はスキャンを続行。
牛・磯 了解。
金城 逆境に立てば立つほど、頼もしくなっていくね、あんた。
女 （少女のように微笑む）
金城 さあ、急ごう。ケンとターゲットが待ってる。

ともに脱兎のごとく駆け出そうとしたところで、舞台はストップモーション。
幾本もの照明が静止した女を射抜いている。
音楽が一気に高鳴り、そして、舞台が暗転する・・・

Away Target 2008 [了]

【謝辞】

作品冒頭近くで、大沢在昌氏の名著「新宿鮫」より(剽窃とも取れる)大胆な引用をさせて頂きました。高橋、花田両名の、愛して止まない大沢氏へのオマージュと受け取って頂ければ幸いです。いつもエキサイティングな作品を提供してくれる大沢氏にこの場をお借りして感謝いたします。